

# 文学研究科

仏教学、文学、歴史学の3専攻を設置。

通学課程と通信教育課程の相互履修制度も設けています。



文学研究科長  
曾和義宏

文学研究科は、仏教学専攻・文学専攻・歴史学専攻の3専攻で構成されており、50数名の教員を擁しています。通学課程においては、全ての専攻に修士課程・博士後期課程を設置しています。また通信教育課程においては、全専攻に修士課程を、仏教学専攻と歴史学専攻においては、博士後期課程を設置しています。文学専攻には、日本文学系・中国文学系・英米文学系の3つの学系から、主要専攻を選択して学ぶことができます。

通学課程・通信教育課程ともに同じ教授陣が指導に当たっており、いずれの専攻も、学問領域、開講科目、指導内容もほぼ同一です。通学課程・通信教育課程の相互履修も可能です。

現在では、生涯学習社会の実現のためにさまざまな施策が推進されており、大学院において研究を進めたいと希望する方たちに、広く門戸を開くことが要請されています。

その要請に応えるために、本研究科では高度な教養と専門知識を身につけた研究者を養成するコースと、専攻によっては高度教養人、高度専門職業人の養成を目的としたコースを設置しています。

修士課程においては、いずれのコースにおいても、一定の科目を履修した上で修士論文を提出し審査に合格すれば修士の学位を取得できます。研究者を目指す人は、修士の学位を取得して博士後期課程に進学し、博士の学位を取得するために研究を継続していきます。

各専攻とも、修士課程においては、専門知識と研究技能を身に付ける科目とともに、複数の教員による集団指導を行う科目「研究指導演習」を設けて、修士論文の完成に至るまでの研究指導を行っています。博士後期課程も同様に、博士課程修了論文の完成に至るまでの集団指導体制を取っています。通信教育課程においては、常時の集団指導の代替として中間発表会を開催し、その際に複数教員の研究指導を受けられるように図っています。

## 仏教学専攻

通学課程

修士課程／博士後期課程

通信教育課程

修士課程／博士後期課程

インド・チベット・中国・日本の仏教、  
および法然教学・浄土学、仏教文化に関する  
高度な専門的知識と研究能力を持つ人材を養成します。

### POINT

専門の知識を高度に養いながら、  
仏教文献の解読や思想の分析を中心とする  
仏教研究を推進しています

2500年前の古代インドに誕生した仏教は、アジア各地のさまざまな文化と融合して変容をとげながら、それぞれの地に膨大な量の仏教文献を残しました。仏教学研究の領域においては、修士課程では経典や律典といった仏教聖典、あるいは仏教思想家の著作などのアジア各地に残された仏教文献を解読し、その思想を分析することを中心に取り組みます。また博士後期課程では文献を選んで指導教員のもとで解読研究を行い、その思想を分析して各自の言葉で論述することが基本となります。

教学思想・教理史から、  
信仰・実践論にいたるまで  
浄土宗学・浄土教学研究の  
さらなる展開と深化をめざしています

浄土学研究の領域でははじめに浄土教学そのものの特質を明らかにし、仏教学はもちろん、関連分野とも比較して学際的に浄土学を位置づけ、浄土学の研究方法を示します。同時にインド・中国・日本の仏教を通観する視点を養い、とくに浄土教の流れや諸相を正しく把握して、インドに発生し中国と日本において熟した阿弥陀仏信仰に関する理解のもとで、純粋浄土教の研究の、さらなる展開と深化をめざします。原典研究と資料の吟味には徹底を期し、教学・教理・思想はもちろん、信仰実践論にいたるまで幅広い研究分野と研究方法を培って、学生の研究に取り組む指導を行います。

多様に展開・表現された仏教文化を通じて、  
永遠なるものを求めてやまない  
「人間」の姿を学びます

仏教文化研究の領域では、日本を中心としつつ、アジア全般にわたる広い視野から「文化現象としての仏教」を研究します。経典注釈、歴史記録、文学作品などの文献資料や、絵画、仏像・神像などの美術資料、あるいは習俗や民間的な祭祀、行事などの民俗資料を対象に、思想史、文化史（美術学・書誌学）などの方法論を駆使して、仏教学、宗教学、歴史学、国文学、民俗学などに限定されない領域横断的な関心と視野の中で究明する知の実践が特徴です。永遠なるものを希求していく「人間」の営みを学びます。

## 京都・宗教系大学院連合(K-GURS)単位互換制度について

通学課程

2005年7月31日、京都を中心とした宗教系大学の大学院においてそれぞれの宗教や宗派の特色ある教育プログラムを展開する中で、研究上の相互交流を図ることを目的として、「京都・宗教系大学院連合(Kyoto Graduate Union of Religious Studies 略称K-GURS)」が設立されました。2006年度より加盟大学間での単位互換制度を発足し、各自の研究活動における専門領域を広げるため、また専門分野以外の拡充や補完、または専門分野との比較研究を深めることが可能となり、本学も加盟校として文学研究科が参加しています。

参加大学院  
および大学

大谷大学大学院 文学研究科 皇學館大学大学院 文学研究科 高野山大学大学院 文学研究科 種智院大学 人文学部 同志社大学大学院 神学研究科  
花園大学大学院 文学研究科 佛光大学大学院 文学研究科 龍谷大学大学院 文学研究科／国際文化学研究所／実践真宗学研究所

以上、8つの大学院  
および大学で構成。

履修上限  
単位数

・ K-GURSの履修上限は年間4単位。この単位は本学の年間の履修登録上限単位には含めないものとします。  
・ 修了要件充足年度以後に単位互換制度の履修登録を行った場合は、「大学院学費納付規程」第7条の「当該年度の科目履修がなく」に相当しないものとして、年間の学費納入が必要となります。

単位認定

・ 通学課程文学研究科修士課程在学学生のみ、科目履修による単位認定を行います(同文学研究科博士後期課程在学学生の履修は可としますが、単位の認定はできません)。  
・ 履修単位は関連科目としての認定を行います。  
・ 単位の認定時期は、履修年度末となります。



K-GURS ホームページ

<https://www.kgurs.jp/>

受講について

期間内に履修登録手続きを行った科目について受講が可能となります(ただし、受講生数が多数となった場合は各大学において選考が行われる場合があります)。

文学専攻

通学課程

修士課程／博士後期課程

通信教育課程

修士課程

日本・中国・英米の言語・文学・思想・文化に関する専門的知識を修得。広い視野をもつ高度専門職業人や高度教養人の養成、生涯学習を含む様々な学習機会の提供にも重点を置いています。

社会の変化に対応して、文学専攻では、研究者養成だけでなく、広い視野をもつ高度専門職業人や高度教養人の養成にも重点を置きます。そのために、組織・入試・カリキュラムの3つにおいて

- (1) 組織においては、下位区分として日本文学系、中国文学系、英米文学系の3つの学系を置いています。
- (2) 入試においては、面接を重視します。
- (3) 修士課程のカリキュラムは、文学専攻という大枠の下で、3つの学系の科目が体系的に用意されています。また、文学専攻として、4つの共通の基礎科目や、7つの専攻共通科目を用意したうえで、さらに、3つの学系から1つを主専攻に選んだ院生が、他の学系の科目をも学修できるよう制度的にも保証しています。博士後期課程(通学課程)のカリキュラムの必修科目は、「文学研究指導演習」の3年間で6単位のみです。「文学研究指導演習」は1年間に2回、2日間(4コマ×2日間×2回)の集中講義形式で行います。

POINT

各時代の日本文学、日本語学、書道文化の教育・研究に専任の教員を配置しています

日本文学系では、上代から近・現代に至る各時代の日本文学および日本語学、書道文化、仏教文学に関する精深な学識の修得に努めることを目的とし、上代、中古、中世、近世、近・現代、日本語学、日本語教育、書道文化の各専門分野に専任の教員を揃えて指導にあたります。特に、近・現代の担当者は4人おり、小説、詩歌、評論、アニメなど幅広い研究領域をカバーしています。

中国に関する幅広く、かつ専門的な知識を有し、日中の交流に貢献できる人材を養成します

中国文学系では、古典から近現代に関する資料に拠って、文学のみならず、さまざまな分野にアプローチできるカリキュラムが特徴。各分野に関する専門知識を獲得し、その後に各自が専攻領域の研究を深めていきます。中国に関する幅広く、かつ専門的な知識を有し、21世紀における日中の交流に貢献できる人材の養成を目指しています。

英語力の向上に努め、英米文学、英語学、英語教育の研究を促進します

英米文学系では、主に英米の文学作品の中から詩、小説、戯曲、評論などを研究する文学研究と英語という言語を対象とする英語学研究に分けることができます。英語教育に関する科目も開設しています。研究で扱うものは英語で書かれた文献が中心です。英語を使って話す・聞くといった能力も高めることができます。専門知識の習得だけではなく、実用的英語能力をさらに高めようと考えている人にとっても有効な学習の場を提供しています。

歴史学専攻

通学課程

修士課程／博士後期課程

通信教育課程

修士課程／博士後期課程

世界史的・人類史的な視野からの歴史学研究を通じて、歴史学に関する広汎で高度な専門的知識や分析・研究の技能を活用できる人材を養成します。

POINT

世界史的視野に立った、広汎で高度な歴史学に関する教養

近年の歴史学研究は、政治・経済・文化の国際化、少子化、環境・資源問題などの社会環境の変化のなかで、一国史的な枠組みが解体しつつあり、研究・学修環境の国際化・学際化に対応して世界史的・人類史的な視野からの研究が必要になっています。専門科目の学修を中心としながら、近接分野の知識を広く学修して、多様な研究視角や研究方法に関する基礎的知識を身につけ、自らの研究を広い視野で位置づけます。

## 研究に必要な基礎能力や技能の涵養

より広い視野から高度な歴史学の専門知識を習得し、独創的な研究方法を確立するために、歴史学に関する高度な専門知識と学際的な知識、専門領域や近接関連領域の研究状況・研究到達点や研究成果を踏まえて、文献読解の高度な語学力と史資料の収集・分析などの研究技能、専門的な研究の視点、分析・総合の方法、立論の方法を学修し、歴史学に関する視野の広がりや研究的思考の深化を図ります。

## 実践的な学問への展開

歴史学に関する高度な教養を身につけた人(職業人や研究者)に求められるのは、理論と実務をつなぐことのできる実践的な能力、すなわち専門的・学術的な事項を利用可能な形で社会に広く発信できる能力です。そのために、フィールドワークなど体験型の学修や、史(資)料を情報源として取り扱う知識や実践的技能的の修得、歴史情報として社会に発信する史(資)料や調査・研究の成果などを情報化するための学修を進めます。

## ディプロマポリシー(学位授与の方針)

### 仏教学専攻

修士課程 ※ 次の(1)から(4)をすべて満たす者に「修士(文学)」を授与する

#### 1) 知識

1. 浄土学・仏教学・仏教文化のうち、いずれか一つの専門領域に関する高度な専門知識を持っている
2. 専門領域以外で、近接する関連領域に関する高度な専門知識を持っている
3. 専門領域に関連して有すべきインド・中国・日本の仏教に関わる学際的知識を持っている

#### 2) 研究技能

1. 研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を備えている
2. 研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

#### 3) 独創性

1. 専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている
2. 専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を備えている

#### 4) 総合力

1. 当該研究を専門領域だけでなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を備えている

博士後期課程 ※ 次の(1)から(4)をすべて満たす者に「博士(文学)」を授与する

#### 1) 知識

1. 浄土学・仏教学・仏教文化のうち、いずれか一つの専門領域に関する高度な専門知識を持っている
2. 専門領域以外で、近接する関連領域に関する高度な専門知識を持っている
3. 専門領域に関連して有すべきインド・中国・日本の仏教に関わる学際的知識を持っている

#### 2) 研究技能

1. 研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を備えている
2. 研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

#### 3) 独創性

1. 専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている
2. 専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法を採用し、学術論文を作成し、広く学界に貢献する能力を備えている

#### 4) 総合力

1. 当該研究を専門領域だけでなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した研究として学術論文をまとめる総合的な能力を備えている

### 文学専攻

修士課程 ※ 次の(1)から(4)をすべて満たす者に「修士(文学)」を授与する

#### 1) 知識

1. 日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化のうち、いずれか一つの専攻領域に関する高度な専門的知識を持っている
2. 日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化のうちで専攻する領域以外において、一定の専門的知識を持っている

#### 2) 研究技能

1. 研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な言語能力を備えている
2. 研究遂行に必要な資料の収集とその分析の能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

#### 3) 独創性

1. 専攻領域ならびに関連領域について、先行研究の状況を正しく把握した上で、自らの研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている
2. 専攻領域において、独自の観点から研究テーマを設定して研究を遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を備えている

#### 4) 総合力

1. 専攻領域における先行研究の状況や成果を正確に把握し、自らの研究を、これとの関連性を明確にしつつ、独自性をもったものとして総合し、修士論文としてまとめる能力を備えている
2. 自らの研究を、専攻領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果とも照らし合わせ、多角的な視点をも有するものとする能力を備えている

博士後期課程 ※ 次の(1)から(4)をすべて満たす者に「博士(文学)」を授与する

#### 1) 知識

1. 日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化のいずれかの領域に関して、すぐれて高度な専門的知識を持っている
2. 専攻領域のみならず、近接する関連領域に関しても広範な学際的知識を持っている

#### 2) 研究技能

1. 研究の対象となる文献を解読するために必要とされる言語能力を備えている
2. 研究遂行に必要な資料の収集とその分析の能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

#### 3) 独創性

1. 専攻領域ならびに近接する関連領域の研究状況を確実に把握した上で、自らの研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている
2. 自らの研究が専攻領域において独創性を備えたものとなっている
3. 研究遂行のために真に独創的な研究方法が導入されている

#### 4) 総合力

1. 自らの研究を、すぐれて独創的な内容を持ち、かつ独立した新しい研究として公表するに足る水準で遂行する能力を備えている
2. 自らの研究を、広範な領域にわたる専門的知識を応用して展開し、すぐれて高い水準で遂行する能力を備えている
3. 自らの研究を、上記の二点を踏まえながら博士論文としてまとめる能力を備えている

つづく→

※大学院の教育研究上の目的とカリキュラムポリシー、アドミッションポリシーは本学Webサイトに掲載しています。

ディプロマポリシー (学位授与の方針) つづき

歴史学専攻

修士課程

歴史学専攻では専攻が定めるカリキュラムに則り所定の単位数以上を修得し、高度専門職業人コースにおいては「研究指導演習」を受講したうえで、「修士論文」または「課題研究」を提出し、研究者コースにおいては「研究指導演習」および「論文指導演習」を受講したうえで「修士論文」を提出し、それぞれ審査に合格し、かつ以下の要件を満たしていると認められた場合に、「修士(文学)」の学位を授与する

1) 知識

1. 歴史学の中で専門とする領域について高度な専門知識を持っている
2. 専門領域以外で、近接する分野の各関連領域に関する高度な知識と、専門領域に関わる学際的知識を持っている

2) 研究技能

1. 研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力がある
2. 研究遂行に必要な資料収集・分析能力をもっている
3. 研究成果を学界・社会に対して発信することができる

3) 独創性

1. 歴史学の中で専門とする領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づけることができる
2. 歴史学の中で専門とする領域を研究するとき、関連する学問分野に関する豊富な知識を持ち、独自のあるいは独創的な研究方法に基づいて遂行できる

4) 総合力

■高度専門職業人コース選択の場合

1. 当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域や学際的領域における広範な知識を応用して遂行できる
2. 研究の成果を一定水準に到達した内容を持つ課題研究としてまとめることができる
3. 研究を通して修得した歴史学に関する広汎で高度な専門知識や技能をさまざまな社会的活動に活用し、また社会活動から修得した知識や技能を研究に活かすことができる

■研究者コース選択の場合

1. 当該研究を、専門領域だけでなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で、独創的に遂行できる
2. 研究の成果を一定水準に到達した研究として、修士論文としてまとめる総合的な能力を備えている
3. 研究の過程で修得した歴史学に関する広汎で高度な専門知識や技能を基盤に、創造的な知見を切り開き、それを学界や社会に対して発信できる

博士後期課程

歴史学専攻では専攻が定めるカリキュラムに則り必要な単位数以上を修得したうえで、「博士論文」を提出して審査に合格し、かつ、以下の1) から4) のすべてを満たす者に「博士(文学)」の学位を授与する

1) 知識

1. 歴史学のなかで、専門とする領域について優れて高度な専門知識をもっている
2. 専門領域に近接する諸領域について高度な専門知識をもっている
3. 専門領域に関連して、歴史学に関わる広範な学際的知識をもっている

2) 研究技能

1. 研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要とされる高度な語学力をもっている
2. 研究遂行に必要な資料を的確に収集・分析できる

3) 独創性

1. 専門領域および関連諸領域の研究状況を正しく把握したうえで、当該研究の目的・意義を正確に位置づけている
2. 専門領域において当該研究が独自のあるいは独創的内容をもっている

4) 総合力

1. 広範な領域にわたる、優れて高度な専門知識に基づいて研究を遂行する能力をもっている
2. 専門領域において当該研究が独自のあるいは独創的な研究方法に基づいて遂行されている
3. 上記の二点を踏まえながら、研究成果を博士論文としてまとめることができる
4. 専門領域に関する研究成果を、学界及び社会に対して広く発信し、社会に還元できる

※大学院の教育研究上の目的とカリキュラムポリシー、アドミッションポリシーは  
 本学Webサイトに掲載しています。

開講科目

通学課程

仏教学専攻

修士課程

科目区分	科目名	単位	
専攻科目	基礎科目	仏教学研究基礎 1	2
		仏教学研究基礎 2	2
	特殊研究科目	法然教学特殊研究	2
		浄土教学特殊研究 1	2
		浄土教学特殊研究 2	2
		仏教学特殊研究 1	2
		仏教学特殊研究 2	2
		仏教学特殊研究 3	2
		仏教学特殊研究 4	2
		仏教文化特殊研究	2
	演習科目	法然教学演習 1	2
		法然教学演習 2	2
		浄土教学演習 1	2
		浄土教学演習 2	2
		仏教学演習 1	2
		仏教学演習 2	2
仏教学演習 3		2	
仏教学演習 4		2	
研究指導科目	仏教文化演習 1	2	
	仏教文化演習 2	2	
	仏教文化演習 3	2	
	仏教文化演習 4	2	
関連科目	仏教学研究指導演習 1	2	
	仏教学研究指導演習 2	2	
	仏教学研究指導演習 3	2	
	仏教学研究指導演習 4	2	
	仏教学特論 1	2	
	仏教学特論 2	2	

【修了要件】  
 ・2年以上在学し、所定の30単位以上を修得し、修士論文を提出して、その審査に合格すること。  
 【履修方法】  
 ・基礎科目2単位以上、特殊研究科目6単位以上、演習科目8単位以上、研究指導科目8単位、計30単位以上修得すること。  
 ・第1学年の履修登録上限単位数は、年間22単位とする。

博士後期課程

科目区分	科目名	単位
専攻科目	仏教学研究指導演習 I	1
	仏教学研究指導演習 II	1
	仏教学研究指導演習 III	1
	仏教学研究指導演習 IV	1
	仏教学研究指導演習 V	1
	仏教学研究指導演習 VI	1

【修了要件】  
 ・3年以上在学し、所定の6単位以上を修得し、博士論文を提出し、その審査に合格すること。  
 【履修方法】  
 ・「仏教学研究指導演習I~VI」6科目6単位を修得すること。

文学専攻

修士課程

科目区分	科目名	単位	
専攻科目	基礎科目	文学研究基礎	2
		日本文学研究基礎	2
		中国文学研究基礎	2
		英米文学研究基礎	2
	日本文学系	日本文学特殊研究 1	2
		日本文学特殊研究 2	2
		日本文学特殊研究 3	2
		日本文学特殊研究 4	2
		日本語学特殊研究	2
		日本文学演習 1	2
		日本文学演習 2	2
		日本文学演習 3	2
	中国文学系	日本文学演習 4	2
		日本語学演習	2
		中国文学特殊研究 1	2
		中国文学特殊研究 2	2
中国文学特殊研究 3		2	
中国語学特殊研究		2	
中国思想特殊研究		2	
中国文学演習 1		2	
英米文学系	中国文学演習 2	2	
	中国文学演習 3	2	
	中国語学演習	2	
	中国思想演習	2	
	英米文学特殊研究 1	2	
	英米文学特殊研究 2	2	
	英語学特殊研究	2	
	英米言語文化特殊研究	2	
専攻共通科目	英米文学演習 1	2	
	英米文学演習 2	2	
	英語学演習 1	2	
	英語学演習 2	2	
	英米作家研究1	2	
	英米作家研究2	2	
	日本語表現史研究	2	
	現代中国研究	2	
研究指導科目	日英対照言語学	2	
	書道研究	2	
	漢文学研究	2	
	異文化接触研究(中国)	2	
関連科目	異文化接触研究(英米)	2	
	文学研究指導演習 1	1	
	文学研究指導演習 2	1	
	日本語文化研究	2	
	中国近現代思想研究	2	
	英語教育研究	2	
	書道文化研究	2	
	日本文学研究	2	
中国文学研究	2		
	英米文学研究	2	

【修了要件】  
 ・2年以上在学し、所定の30単位以上を修得し、修士論文を提出して、その審査に合格すること。  
 【履修方法】  
 ・主専攻科目は、「日本文学系」「中国文学系」「英米文学系」の3学系からいずれか1つを選択し、その学系の科目を履修すること。  
 ・主専攻とした学系以外の2学系の科目を履修した場合、専攻共通科目の単位としてみなす。  
 ・第1学年の履修登録上限単位数は、年間22単位とする。(高度専門職業人コース)  
 ・基礎科目4単位、主専攻科目14単位(特殊研究6単位、演習8単位)、専攻共通科目4単位、研究指導科目2単位、関連科目6単位、計30単位以上修得すること。(高度教養人コース)  
 ・基礎科目4単位、主専攻科目12単位(特殊研究4単位、演習8単位)、専攻共通科目6単位、研究指導科目2単位、関連科目6単位、計30単位以上修得すること。

博士後期課程

科目区分	科目名	単位
専攻科目	文学研究指導演習 I	1
	文学研究指導演習 II	1
	文学研究指導演習 III	1
	文学研究指導演習 IV	1
	文学研究指導演習 V	1
	文学研究指導演習 VI	1

【修了要件】  
 ・3年以上在学し、所定の6単位以上を修得し、博士論文を提出し、その審査に合格すること。  
 【履修方法】  
 ・「文学研究指導演習I~VI」6科目6単位を修得すること。

※履修される年度によっては、隔年開講または休講の場合があります。

歴史学専攻				
修士課程				
科目区分	科目名	履修方法	単位数	
基礎科目	歴史学研究基礎 1	T	2	
	歴史学研究基礎 2	T	2	
基礎外国語文献研究	基礎外国語文献研究	T	2	
	基礎文献研究	T	2	
専攻科目	歴史学史料演習 1	T	2	
	歴史学史料演習 2	T	2	
	歴史学特殊研究 1	T	2	
	歴史学特殊研究 2	T	2	
	歴史学特殊研究 3	T	2	
	歴史文化資料演習 1	T	2	
	歴史文化資料演習 2	T	2	
	歴史文化特殊研究 1	T	2	
	歴史文化特殊研究 2	T	2	
	歴史文化特殊研究 3	T	2	
	歴史学特別演習 1	T	1	
	歴史学特別演習 2	T	1	
	歴史学特別演習 3	T	1	
	歴史学特別演習 4	T	1	
	歴史学研究指導演習 1	T	1	
	歴史学研究指導演習 2	T	1	
	歴史学研究指導演習 3	T	1	
	歴史学研究指導演習 4	T	1	
	関連科目	歴史学フィールドワーク	T	2
		外国語文献研究	T	2
フィールドワーク研究		T	2	
歴史情報と社会		T	2	
	歴史情報基礎論	T	2	
	歴史情報資源論	T	2	

**【修了要件】**  
 ・2年以上在学し、所定の30単位以上を修得し、修士論文または課題研究のどちらかを提出して、その審査に合格すること。  
**【履修方法】**  
 ・第1学年の履修登録上限単位数は、年間22単位とする。  
 (高度専門職業人コース)  
 ・基礎科目8単位、専門科目から「演習」4単位以上、「特殊研究」4単位以上を含む8単位以上、研究指導科目4単位、関連科目4単位以上、計30単位以上修得すること。  
 (研究者コース)  
 ・基礎科目8単位、専門科目から「演習」4単位以上、「特殊研究」4単位以上、「特別演習」4単位以上を含む12単位以上、研究指導科目4単位、関連科目4単位以上、計30単位以上修得すること。

**博士後期課程**

科目区分	科目名	履修方法	単位数
専攻科目	歴史学研究指導演習 I	SI	1
	歴史学研究指導演習 II	SI	1
	歴史学研究指導演習 III	SI	1
	歴史学研究指導演習 IV	SI	1
	歴史学研究指導演習 V	SI	1
	歴史学研究指導演習 VI	SI	1

**【修了要件】**  
 ・3年以上在学し、所定の6単位以上を修得し、博士論文を提出し、その審査に合格すること。  
**【履修方法】**  
 ・「歴史学研究指導演習I～VI」6科目6単位を修得すること。

**通信教育課程**

仏教学専攻			
修士課程			
科目区分	科目名	履修方法	単位数
基礎科目	仏教学研究入門	T	2
	仏教学研究基礎 1	ST	2
基礎外国語文献研究	仏教学研究基礎 2	ST	2
	仏教学研究基礎 3	ST	2
専攻科目	法然教学特殊研究	T	2
	浄土宗学特殊研究	T	2
	浄土教学特殊研究 1	T	2
	浄土教学特殊研究 2	T	2
	仏教学特殊研究 1	T	2
	仏教学特殊研究 2	T	2
	仏教学特殊研究 3	T	2
	仏教文化特殊研究	T	2
	法然教学演習 1	S	2
	法然教学演習 2	S	2
	浄土教学演習 1	S	2
	浄土教学演習 2	S	2
	仏教学演習 1	S	2
	仏教学演習 2	S	2
	仏教学演習 3	S	2
	仏教学演習 4	S	2
	仏教文化演習 1	S	2
	仏教文化演習 2	S	2
	仏教文化演習 3	S	2
	仏教文化演習 4	S	2
関連科目	仏教学研究指導演習	G	2
	仏教学特論 1	S	2
	仏教学特論 2	S	2

**【修了要件】**  
 ・2年以上在学し、所定の30単位以上を修得し、修士論文を提出して、その審査に合格すること。  
**【履修方法】**  
 ・基礎科目4単位以上、特殊研究科目8単位以上、演習科目8単位以上、研究指導科目2単位を含み、合計30単位以上を修得すること。

**博士後期課程**

科目区分	科目名	履修方法	単位数
専攻科目	仏教学研究指導演習 I	SI	2
	仏教学研究指導演習 II	SI	2
	仏教学研究指導演習 III	SI	2

**【修了要件】**  
 ・3年以上在学し、所定の6単位を修得し、博士論文を提出して、その審査に合格すること。  
**【履修方法】**  
 ・「仏教学研究指導演習I～III」3科目6単位を修得すること。

文学専攻				
修士課程				
科目区分	科目名	履修方法	単位数	
基礎科目	文学研究基礎	T	2	
	日本文学研究基礎	ST	2	
基礎外国語文献研究	中国文学研究基礎	ST	2	
	英米文学研究基礎	ST	2	
専攻科目	日本文学特殊研究 1	T	2	
	日本文学特殊研究 2	T	2	
	日本文学特殊研究 3	T	2	
	日本文学特殊研究 4	T	2	
	日本語学特殊研究	T	2	
	日本文学演習 1	ST	2	
	日本文学演習 2	ST	2	
	日本文学演習 3	ST	2	
	日本文学演習 4	ST	2	
	日本語学演習	ST	2	
	中国文学系	中国文学特殊研究 1	T	2
		中国文学特殊研究 2	T	2
	中国語学系	中国語学特殊研究	T	2
		中国思想特殊研究	T	2
	中国思想系	中国文学演習 1	ST	2
		中国文学演習 2	ST	2
	中国文学系	中国文学演習 3	ST	2
		中国語学演習	ST	2
	中国思想系	中国思想演習	ST	2
		英米文学特殊研究 1	T	2
英米文学系	英米文学特殊研究 2	T	2	
	英語学特殊研究	T	2	
英米言語文化系	英米言語文化特殊研究	T	2	
	英米文学演習 1	ST	2	
英米文学系	英米文学演習 2	ST	2	
	英語学演習 1	ST	2	
英語学系	英語学演習 2	ST	2	
	英米作家研究 I	T	2	
英米作家系	英米作家研究 2	T	2	
	日本語表現史研究	T	2	
現代中国系	現代中国研究	T	2	
	日英対照言語学研究	T	2	
書道系	書道研究	ST	2	
	漢文学研究	ST	2	
異文化系	異文化接触研究(中国)	ST	2	
	異文化接触研究(英米)	ST	2	
研究指導科目	文学研究指導演習	G	2	
	日本語文化研究	T	2	
中国近現代系	中国近現代思想研究	T	2	
	英語教育研究	T	2	
書道文化系	書道文化研究	T	2	
	日本文学研究	ST	2	
中国文学系	中国文学研究	ST	2	
	英米文学研究	ST	2	

**【修了要件】**  
 ・2年以上在学し、所定の30単位以上を修得し、修士論文を提出して、その審査に合格すること。  
**【履修方法】**  
 ・主専攻科目は「日本文学系」「中国文学系」「英米文学系」の3学系からいずれか1つを選択しその学系の科目を履修すること。  
 ・主専攻とした学系以外の2学系の科目を履修した場合、専攻共通科目の単位としてみなす。  
 (高度専門職業人コース)  
 ・基礎科目4単位、主専攻科目14単位(特殊研究6単位、演習8単位)、専攻共通科目4単位、研究指導科目2単位、関連科目6単位の合計30単位以上を修得すること。  
 (高度教養人コース)  
 ・基礎科目4単位、主専攻科目12単位(特殊研究4単位、演習8単位)、専攻共通科目6単位、研究指導科目2単位、関連科目6単位の合計30単位以上を修得すること。

歴史学専攻				
修士課程				
科目区分	科目名	履修方法	単位数	
基礎科目	歴史学研究基礎 1	ST	2	
	歴史学研究基礎 2	T	2	
基礎外国語文献研究	基礎外国語文献研究	T	2	
	基礎文献研究	T	2	
専攻科目	歴史学史料演習 1	S	2	
	歴史学史料演習 2	S	2	
	歴史学特殊研究 1	T	2	
	歴史学特殊研究 2	T	2	
	歴史学特殊研究 3	S	2	
	歴史文化資料演習 1	S	2	
	歴史文化資料演習 2	S	2	
	歴史文化特殊研究 1	T	2	
	歴史文化特殊研究 2	T	2	
	歴史文化特殊研究 3	S	2	
	歴史学研究指導演習	G	2	
	関連科目	歴史学フィールドワーク	ST	2
		外国語文献研究	ST	2
		フィールドワーク研究	T	2
		歴史情報と社会	T	2
		歴史情報基礎論	T	2
		歴史情報資源論	ST	2

**【修了要件】**  
 ・2年以上在学し、所定の30単位以上を修得し、修士論文または課題研究のいずれかを提出して、その審査に合格すること。  
**【履修方法】**  
 ・基礎科目8単位、専門科目8単位以上(「演習」4単位以上、「特殊研究」4単位以上を含む)、研究指導科目2単位、関連科目4単位以上を含み、合計30単位以上を修得すること。

**博士後期課程**

科目区分	科目名	履修方法	単位数
専攻科目	歴史学研究指導演習 I	SI	2
	歴史学研究指導演習 II	SI	2
	歴史学研究指導演習 III	SI	2

**【修了要件】**  
 ・3年以上在学し、所定の6単位を修得し、博士論文を提出して、その審査に合格すること。  
**【履修方法】**  
 ・「歴史学研究指導演習I～III」3科目6単位を修得すること。

T=テキスト履修  
 S=スクーリング履修  
 ST=スクーリング履修+テキスト履修  
 SI=スクーリング履修+メディア履修  
 G=修士論文・課題研究  
 ※くわしくはP.3を参照してください。

## 教員一覧

※2024年度(2025年度は変更になる場合があります)。

氏名	専門分野	研究課題
<b>仏教学専攻</b>		
市川 定敬	浄土学、法然浄土仏教思想研究	法然浄土仏教の人間観研究、法然浄土仏教の倫理性、宗教間対話
伊藤 真宏	浄土学、日本仏教文化史	法然思想の解明と法然関係文献の発掘、浄土宗歴史、特に三祖良忠の思想研究、日本仏教における信仰受容の研究
大西 磨希子	仏教美術史	唐代仏教美術、当麻曼荼羅、日中文化交流史
加藤 弘孝	中国仏教、浄土教思想	唐中期仏教史の研究、隋唐浄土教思想史の研究、日中仏教交渉史の研究
齋藤 隆信	浄土教思想、円頓戒、中国仏教	浄土教儀礼研究、円頓戒の歴史と思想、隋代仏教研究
齋藤 蒙光	浄土学、法然浄土教思想研究	法然浄土教の思想構造の解明、法然と平安・鎌倉期浄土教者の思想の比較研究
曾和 義宏	浄土学、中国浄土教	中国仏教における仏身仏土論の展開
田中 裕成	仏教学(インド仏教)	アビダルマ仏教の研究、世親作『阿毘達磨俱舍論』の研究、説一切有部の修行体系の研究、テキスト間の異読研究
坪井 剛	日本中世仏教史	専修念仏の歴史的展開に関する研究、鎌倉新仏教の研究、中世における仏教文化の研究
細田 典明	インド哲学、仏教学	ウパニシャッド研究、サンスクリット阿含経研究、ウパニシャッドと仏教の比較研究
南 宏信	浄土学、仏教文献学	法然遺文の研究、浄土宗典籍の研究、新羅浄土教の研究
三好 俊徳	日本仏教文学、日本仏教文化史	日本中世寺院における歴史叙述についての研究、中世寺院の蔵書体系についての研究、宗論・相論についての文化史的研究
山極 伸之	仏教学	インド仏教回教史研究、律蔵の起源に関する研究
<b>文学専攻</b>		
有田 和臣	日本近現代文学	小林秀雄の批評思想形成過程、生命主義国語教育史(主に大正期)、日本近代批評と現代文学理論
池田 晋	中国語学	中国語の周辺的テーマの意味機能に関する研究、中国語の類義語・類義表現に関する研究
稲永 知世	談話分析	メディア・ディスコースにおけるイデオロギー研究
鶴岡 光昌	中国思想史	魏晉南北朝の思想
大井 さき	中国古典文学	北宋・梅堯臣の詩についての研究
岡村 弘樹	日本語学、日本語学	古代日本語の文法・語彙、活用語の形態やその変遷
萩原 廣	日本語教育、日本語学	日本語教授法、日本人の語彙量(理解語彙、使用語彙)調査
神原 勇介	日本中古文学	『源氏物語』の形成と主題、平安朝文学と家族構造の連関
清川 祥恵	英文学、ユートピアニズム	ウィリアム・モリス研究、近代以降の神話の(再)創作の研究
権田 浩美	日本近現代詩、日本近現代小説	日本近現代詩の研究、女性性の〈語り〉によってなる近現代小説の研究
坂井 健	国文学、文学一般(含文学論・比較文学)	明治大正期の文学思想、文学と芸術・思想、没理想論とその周辺
瀬邊 啓子	中国現代文学、言語文化学	新時期文学以降の都市文学、文革期文学の創作状況
土佐 朋子	日本上代文学	『万葉集』『懷風藻』を中心とした日本古代文学に関する研究、『懷風藻』伝本および本文に関する研究
野谷 啓二	英米文学、英米文化	キリスト教文化、英米思想史
濱田 泰彦	近世文学(浮世草子)	井原西鶴の浮世草子作品、近世文学作品における「教訓」の歴史
浜畑 圭吾	中世軍記文学、説話文学	平家物語の生成に関する研究、『安元御賀記』を中心とした院政期御賀の研究、高野文化圏をとりまく文芸の研究
日高 佳紀	日本近現代文学、文学理論	近現代の日本文学と文化・社会制度・メディアの研究、読者論・フィクション論など文学理論の研究
松本 真治	英文学、英語教育	T.S.エリオット研究、ミュリエル・スパーク研究、文学教育
ボロク 尾藤 麻弥	英米文学	Vladimir Nabokov研究
持留 浩二	アメリカ文学、文学批評理論	J.D.サリンジャー、認知科学から見た文学、進化心理学から見た文学
楊 韜	中国近現代文学、中国近現代史、メディア論	近代中国のジャーナリズムと知識人、現代中国のメディアと社会、日本と中国語圏地域との文化交流
李 冬木	中国近代文学、中日近代文学比較研究	明治日本と中国近代文学、魯迅と日本書
劉 赫洋	日中語彙対照研究、中国語教育	中国語学習と日本語学習における漢字問題、日中両言語における一字漢語に関する考察
若杉 邦子	中国近現代文学、中国近現代史、中国近現代思想	戊戌変法運動に関する研究
Henry Foster	英語教育学、応用言語学	言語学習者オートノミー
<b>歴史学専攻</b>		
網島 聖	人文地理学、経済地理学、都市史	近代の産業化と地域形成、同業者町の発達と同業者の制度・慣習、地誌的出版物の出版と地域振興の関係
安藤 佳香	仏教美術史	宗教美術に表された植物文様、仏教美術にみられる固有思想の造形、日本古代木彫仏の研究
李 昇燁	朝鮮近現代史、日本帝国/植民地史	植民地朝鮮における日本人社会、帝国/植民地をめぐる政治構造、植民地統治下における旧韓国皇帝一族(李王家)
太田 智己	日本文化史	文化と社会
貝 英幸	流通史、対外交渉史、古文書学	地域権力の対外交渉についての研究
駒井 匠	日本古代史	日本古代の天皇と仏教の関係、日本古代の仏教制度
斎藤 利彦	日本文化史、日本芸能史	近世上方歌舞伎の歴史的研究、近現代上方歌舞伎の伝承に関する研究、京都の民俗芸能と映像記録撮影の史的研究
斎藤 英喜	神話・伝承学	日本神話、及び祭祀・呪術に関する研究
佐古 愛己	日本中世史、日本古代史、古記録・古文書学	叙位・除目に関する研究、平安貴族社会・中世公家社会の研究、平安・鎌倉期京都の研究
鈴木 文子	文化人類学、韓国研究	グローバル化と韓国社会、植民地期の日本人と朝鮮人の他者認識について、日本の非集住地域における在日コリアンについて
塚本 章宏	地理情報科学、歴史地理学、人文地理学	近世・近代都市における空間構造と歴史的変遷に関する研究、地理情報システム(GIS)を援用した歴史資料の解析と可視化に関する研究
塚本 栄美子	ドイツ近世史、宗教改革史	ブランデンブルク選帝侯領における宗教改革について、ブランデンブルク=プロイセンの近世国家形成について、ベルリンにおけるユグノーについて
寺嶋 一根	日本近世史	近世権力の成立過程に関する研究、身分秩序の表象としての服装に関する研究、近世期京都の研究
苔名 悠	日本美術史	原本が失われた絵巻語作品の研究、院政期における絵巻の機能についての研究、院政期絵巻の後世における受容に関する研究
西川 利文	漢代史	漢代官僚制、漢代の国家と思想
麓 慎一	日本近代史	近代の国際関係史、東アジアの水産史、アイヌ史
堀 大介	考古学、日本古代史	古代日本の国家形成史、古代日本の宗教史、日本文化史
水田 大紀	イギリス近代史	近代イギリスにおける官僚制度改革、官僚日常生活史、マルタ近代史
南川 高志	西洋古代史(ローマ帝国史)	ローマ帝国の政治と社会の研究、近現代世界におけるローマ帝国の記憶と表象の研究
八木 透	民俗学、家族史	日本と東北アジア地域の家族と通過儀礼をめぐる民俗学研究、日本の民俗行事や民俗芸能の現状と変化の構造を探る研究、日本のまつりと祭祀組織の構造を探る研究
山崎 覚士	東アジア海域史、五代史、中国都市史	唐宋時代の都市と貿易と外交、唐宋時代海商研究、五代史研究

## 研究テーマ・論文題目(修士・博士) ※これまでの修了者のものより抜粋しています。

### 仏教学専攻

- ・『スッタニパータ』に見る「苦」および「苦なるもの」に関する考察
- ・法然と親鸞の「行」思想の比較
- ・俱舎論修行体系の特異性
- ・般舟三昧経「行品」の研究
- ・中国浄土教における業の問題 —善導の滅罪と往生を中心として—
- ・ナルタン版ツォンカバ絵伝の研究
- ・残食法の研究 —特に十事に含まれる事例を中心にして—
- ・法然上人の至誠心理解について
- ・中世後期における法然思想の形成と受容 —『大仏供養物語』『松虫鈴虫讃嘆文』『為盛発心因縁集』をめぐって—
- ・珍海撰『決定往生集』の研究
- ・経部思想の研究 —シュリーラータと世親の思想を中心として—
- ・法然の『往生要集』釈書の研究 —「合」解釈と良忠の姿勢に注目して—
- ・近世における『一枚起請文』注釈書の研究 —一 大念仏論争をめぐって—
- ・律蔵の起源と成立過程 —布薩をめぐるVinayaとNikāyaの関係—
- ・即身仏と土中入定
- ・『四分律刪繁補闕行事鈔』の研究 —特に「篇聚名報篇第十三」における五篇聚について—
- ・当麻曼荼羅の研究 ～浄土宗(鎮西派・西山派)における研究差異についての考察～
- ・浄土宗における念仏と戒 —「浄土布薩式」を中心に—
- ・『日本霊異記』における優婆塞の位置づけについて
- ・『スッタニパータ』における問いと教え
- ・聖岡における神道論の研究
- ・法然と聖光の三心理解
- ・法然消息の文体表現の研究
- ・〈パーリ律〉と『サマタパーサーディカー』にみられる僧団内役職 —セーナ・サナカンダカを中心として—
- ・法然浄土思想の位相 —仏性から称名念仏へ—
- ・初期唯識思想から見た『楞伽經』の成立史的研究

### 文学専攻

- ・近松のなぞ —大石の「預置候金銀請拂帳」について—
- ・「路地」の「ポスト」 —中上健次「日輪の翼」論
- ・『沙石集』の中の女性について
- ・『木堂翰墨談』考 —「硯談」を中心にして
- ・日本語初級教科書における「んです」の扱いとその問題点
- ・A Strategy Used to Win the Heart of Americans: *The Grapes of Wrath* and *The Circuit*
- ・中世中国語における処置文 —「祖堂集」と「敦煌変文」にみる南北差—
- ・大久保利通の書と二首の七言絶句の考察
- ・二音節形容詞重ね型の成立可否について
- ・現代における敬語教育についての考察
- ・川端康成とノーベル文学賞 —スウェーデンアカデミー所蔵の選考資料をめぐって—
- ・藤原佐理研究 —書状に関する考察を中心として—
- ・近松秋江「別れたる妻に送る手紙」にみる主観文芸とその実践
- ・A Critical Discourse Analysis of Euphemistic Expressions about Sexuality in Media Discourse: —Comparing American and Japanese TV Dramas—
- ・植民地期における朝鮮作家金史良の研究I —テキストにおける異文化的な特性をめぐって—
- ・魯迅と明治期におけるロシア文学の翻訳・紹介
- ・ヘミングウェイの頭部外傷とテキストとの関係性の研究 —氷山理論・受け継がれた遺産—
- ・賈平凹の長編小説『古炉』に見る「文革」について —「狗尿苔」を中心に—
- ・Christian Symbolism in *The Chronicle of Narnia*
- ・小学校英語検定教科書における可算・不可算名詞 —指導の現状と改善策—
- ・How Henry David Thoreau's Concepts influenced Frank Lloyd Wright

### 歴史学専攻

- ・日本古代の「従良」の研究
- ・鎌倉期九条家の家意識の形成と展開 —九条兼実・道家・慈円の研究—
- ・文禄・慶長の役(壬辰倭乱・丁酉倭乱)と対馬宗氏
- ・対馬藩家政改革への道筋 —雨森芳洲「勤懲定式」を中心に—
- ・幕末維新期の尾張藩生糸商人と藩の流通政策 —武儀郡長瀬村武井助右衛門家を中心にして—
- ・御陵衛士の活動について～伊東甲子太郎の動きから～
- ・将軍継嗣問題と海防掛 —岩瀬忠震を中心に—
- ・戊辰戦争時の「病院」と「介抱人」の役割 —英国医師の関与した「病院」を中心に—
- ・南宋建康城空間構成と都市の経済生活について
- ・唐後半期塩政変革史研究
- ・「日支親善」と中国留日学生 —『日華学報』を中心に—
- ・北朝鮮帰還事業をめぐる大韓民国及び居留民団の対抗策
- ・ブルガリア聖俗権力のボゴミール派認識・対処
- ・玉作から見る古墳時代前期の南関東 —相模・南武蔵を中心として—
- ・新潟県清酒製造業地域におけるブランド化と価値付け
- ・明治期京都における旧市街の変容に関する歴史地理学的研究
- ・巫俗と暮らしをめぐる民俗学的研究 —南部伊豆諸島を事例として—
- ・年中行事「二十日灸」の民俗学的研究
- ・現代社会のケガレ観をめぐる民俗学研究 —コロナ差別などの事例を通して—
- ・薬師寺の葡萄唐草文をめぐる—考察

# 教育学研究科

修士課程に加え、博士後期課程を設置。

理論と実践を融合できる高度専門職業人・研究者を養成する。



教育学研究科長  
小林隆

教育学研究科は、これまで全国各地から多様な学生を集め、研究者はもとより優秀な教員や臨床心理士を数多く輩出してきました。本研究科から巣立った修了生は、理論的・学術的知見と高い実践力を併せ持つ高度専門職業人・研究者として高い評価を受けていることは衆目の一致するところ です。

子どもや人を取り巻く社会は以前にも増して複雑化し、そのより良い成長や心理的支援については「情」に加え、先人の取り組みに基づいた理論的・学術的な深い洞察が求められます。また、人は生涯にわたって学習・成長をしていくという視点も求められます。

本研究科ではこのような要請に応えるため、「生涯教育専攻」「臨床心理学専攻」(修士課程・博士後期課程)を設置しています。「生涯教育専攻」では、学校教育と社会教育の分野で、人間の生涯にわたる展望をもって創造的に活躍できる高度専門職業人の育成をめざしています。「臨床心理学専攻」では、心の病の改善と心の健康生活に寄与する臨床心理士・公認心理師の養成に基づくカリキュラムを編成し、教育・医療・福祉・司法・産業等の幅広い分野で活躍できる人材の輩出をめざしています。両専攻ともに、研究者養成としての博士後期課程を設置しているところも、本研究科の特色と言えるでしょう。

## 生涯教育専攻

通学課程

修士課程／博士後期課程

通信教育課程

修士課程

学校教育と社会教育に関する高度な教育・研究を展開。  
現職教員を含む社会人のニーズにも応えています。

## POINT

多様な経歴の入学者を受け入れ、  
多岐にわたる領域において  
懇切丁寧な研究指導を展開

通学課程では、学校教育と社会教育の分野において、人間の生涯にわたる展望をもって創造的に活躍できる研究者および高度専門職業人の育成をめざしています。  
通信教育課程では生涯教育の課題や教育の人間学的歴史的考察、教育観の変遷をはじめ、教育制度学、教育方法学、教育心理学、特別支援教育、社会教育、法教育、人権教育などの科目も開講しています。また、現職教員のニーズに対応するため、教科教育に関連した科目を開講していることも特色です。

専修免許状の取得も可能

通学課程・通信教育課程ともに、学部段階で教員免許（教育職員1種免許状）を所有していれば、必要な単位を修得して、専修免許状の取得が可能です。  
また、学部段階で教員免許を取得していない場合でも、学部聴講や「免許併修」制度を利用して教員免許を取得することができます。  
いずれもくわしい内容は28ページ（免許状および資格の取得について）を参照してください。



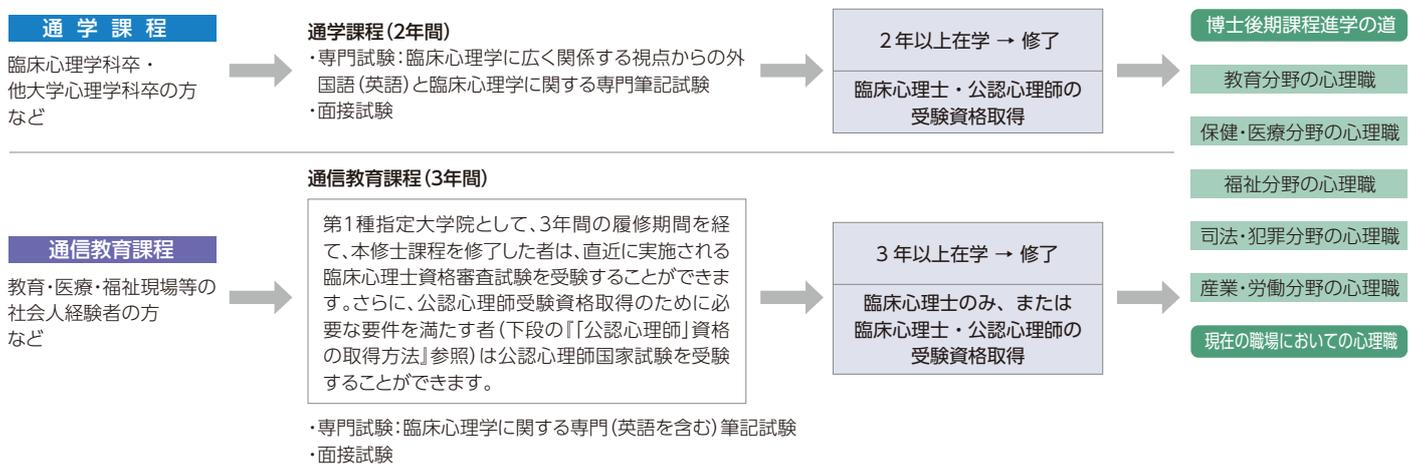
「臨床心理士・公認心理師」養成に対応したカリキュラムを展開。心の専門家に求められる高度な能力を育成します。

POINT

教育、医療、福祉、司法、産業等の幅広い分野で活躍できる教育訓練プログラムを提供

〈臨床心理学専攻〉のカリキュラムは、心の病の改善と心の健康生活に寄与しようとする臨床心理学に基づき構成されています。専任指導教員（臨床心理士・公認心理師有資格教員、医師有資格教員含む）に加え、本学所属の臨床心理学研究センターにおける臨床心理士有資格専門スタッフが助言・指導を行います。また、心の専門家である「臨床心理士」の資格取得のための受験資格が本専攻の修了により付与されるようになっています。2018年度からは「公認心理師」の養成も開始しました。博士後期課程では研究者養成を目的とした教育も行われています。

修了までのイメージ(参考)



心理職初の国家資格  
公認心理師

佛教大学大学院教育学研究科臨床心理学専攻では、心理職初の国家資格「公認心理師」の養成を行っています

「公認心理師」とは?

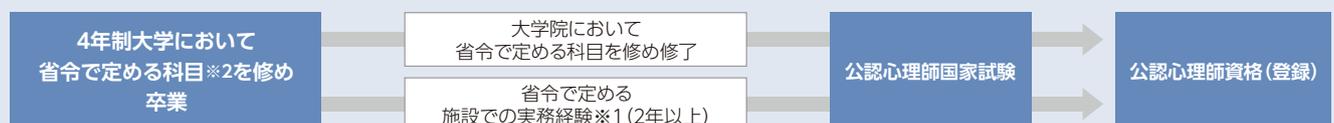
公認心理師とは、登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門知識および技術をもって、次に掲げる行為を行うための国家資格です。

※医師や看護師のような業務独占資格ではなく、資格がないと公認心理師の名称を用いて業務ができない名称独占資格です。

- 1 心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その結果を分析すること。
- 2 心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと。
- 3 心理に関する支援を要する者の関係者に対し、その相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと。
- 4 心の健康に関する知識の普及を図るための教育および情報の提供を行うこと。

「公認心理師」資格の取得方法

資格取得には、4年制大学において文部科学省・厚生労働省令(以下、省令)に定められた科目の単位を修得して卒業後、大学院において省令で定める科目を修めて修了するか、省令で定める施設において2年以上の実務経験(※1)を積むことで国家試験の受験資格が得られます。



※1 「実務経験」においては、省令で定める施設において、文部科学省・厚生労働省が認めるプログラムのもと、公認心理師法に基づく大学院と同等以上の専門的な知識および技能を修得する必要があります。

※2 要件を満たすかどうかについてはご自身の所属される大学もしくは卒業された大学に問い合わせてください。

## ディプロマポリシー(学位授与の方針)

## 生涯教育専攻

修士課程 ※ 次の1)から4)をすべて満たす者に「修士(教育学)」を授与する

## 1)知識

1. 教育学領域に関する高度な専門的知識をもち、十分な実践技能を身につけている
2. 近接関連領域に関する高度な専門的知識を持っている

## 2)研究技能

1. 研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を備えている
2. 研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

## 3)独創性

1. 専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている
2. 専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を備えている

## 4)総合力

1. 当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した独立した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を備えている

博士後期課程 ※ 次の1)から4)をすべて満たす者に「博士(教育学)」を授与する

## 1)知識

1. 教育学領域に関する優れて高度な専門的知識を持っている
2. 専門領域全般の研究に精通し、近接領域を含めた広範な学際的知識を持っている

## 2)研究技能

1. 研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要とされる高度な語学力を備えている
2. 研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

## 3)独創性

1. 専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている
2. 専門研究領域において当該研究が優れて新たな独自性を持っている
3. 研究遂行のために優れて独創的な研究方法を採用している

## 4)総合力

1. 当該研究が優れて独創的な内容を持ち、独立した新しい研究として公表するに相応しい高い水準で遂行する能力を備えている
2. 当該研究が広範な領域にわたる専門的知識を応用して展開され、優れて高い水準で遂行する能力を備えている
3. 上記の二点を踏まえながら、当該研究を博士論文としてまとめる能力を備えている

## 臨床心理学専攻

修士課程 ※ 次の1)から4)をすべて満たす者に「修士(教育学)」を授与する

## 1)知識

1. 臨床心理学、心理臨床学領域に関する高度な専門的知識をもち、「臨床心理士・公認心理師」の資格を得るに十分な実践技能を身につけている
2. 臨床心理学領域の近接関連領域に関する高度な専門的知識を持っている

## 2)研究技能

1. 研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を備えている
2. 研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

## 3)独創性

1. 専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている
2. 専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を備えている

## 4)総合力

1. 当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した独立した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を備えている

博士後期課程 ※ 次の1)から4)をすべて満たす者に「博士(教育学)」を授与する

## 1)知識

1. 臨床心理学、心理臨床学領域に関する優れて高度な専門的知識を持っている
2. 専門領域全般の研究に精通し、近接領域を含めた広範な学際的知識を持っている

## 2)研究技能

1. 研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要とされる高度な語学力を備えている
2. 研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

## 3)独創性

1. 専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている
2. 専門研究領域において当該研究が優れて新たな独自性を持っている
3. 研究遂行のために優れて独創的な研究方法を採用している

## 4)総合力

1. 当該研究が優れて独創的な内容を持ち、独立した新しい研究として公表するに相応しい高い水準で遂行する能力を備えている
2. 当該研究が広範な領域にわたる専門的知識を応用して展開され、優れて高い水準で遂行する能力を備えている
3. 上記の二点を踏まえながら、当該研究を博士論文としてまとめる能力を備えている

※大学院の教育研究上の目的とカリキュラムポリシー、アドミッションポリシーは  
本学Webサイトに掲載しています。

## 開講科目

### 通学課程

#### 生涯教育専攻

#### 修士課程

科目区分	科目名	単位数
専攻科目	生涯教育原論特殊研究 1	2
	生涯教育原論特殊研究 2	2
	生涯教育心理学特殊研究 1	2
	生涯教育心理学特殊研究 2	2
	生涯教育制度学特殊研究 1	2
	生涯教育制度学特殊研究 2	2
	生涯教育方法学特殊研究 1	2
	生涯教育方法学特殊研究 2	2
	生涯教育評価論特殊研究 1	2
	生涯教育評価論特殊研究 2	2
	生涯教育原論演習 1	2
	生涯教育原論演習 2	2
	生涯教育心理学演習 1	2
	生涯教育心理学演習 2	2
	生涯教育制度学演習 1	2
	生涯教育制度学演習 2	2
	生涯教育方法学演習 1	2
	生涯教育方法学演習 2	2
関連科目	生涯教育研究指導	1
	教育哲学特殊研究 1	2
	教育哲学特殊研究 2	2
	教育史特殊研究 1	2
	教育史特殊研究 2	2
	教育心理学特殊研究 1	2
	教育心理学特殊研究 2	2
	学校教育特殊研究 1	2
	学校教育特殊研究 2	2
	社会教育特殊研究 1	2
	社会教育特殊研究 2	2
	児童教育特殊研究 1	2
	児童教育特殊研究 2	2
	図書館学特殊研究 1	2
	図書館学特殊研究 2	2
	健康教育特殊研究 1	2
	健康教育特殊研究 2	2
	文学教育特殊研究 1	2
	文学教育特殊研究 2	2
	環境教育特殊研究 1	2
環境教育特殊研究 2	2	
法教育特殊研究 1	2	
法教育特殊研究 2	2	
国語科教育特殊研究	2	
算数・数学科教育特殊研究	2	
理科教育特殊研究	2	
社会科教育特殊研究	2	
特別支援教育特殊研究	2	
人権教育特殊研究 1	2	
人権教育特殊研究 2	2	
消費者教育特殊研究 1	2	
消費者教育特殊研究 2	2	

【修了要件】  
・2年以上在学し、所定の32単位以上を修得し、修士論文を提出して、その審査に合格すること。  
【履修方法】  
・専攻科目から特殊研究4科目8単位以上、演習6科目12単位以上、研究指導4科目4単位、関連科目から4科目8単位以上、合計32単位を登録履修すること。  
・「生涯教育研究指導」を除き、重複履修しても、修了要件の単位に算入できない。  
・第1学年の履修登録上限単位数は、年間24単位とする。

#### 博士後期課程

科目区分	科目名	単位数
特殊研究	生涯教育人間学特殊研究	2
	生涯教育方法学特殊研究	2
演習	生涯教育制度学特殊研究	2
	生涯教育人間学演習	2
	生涯教育方法学演習 1	2
	生涯教育方法学演習 2	2
生涯教育制度学演習	2	

【修了要件】  
・3年以上在学し、所定の10単位以上を修得し、博士論文を提出し、その審査に合格すること。  
【履修方法】  
・特殊研究は3領域にわたり3科目6単位以上、演習は1領域について4単位以上、合計10単位以上を登録履修すること。

#### 臨床心理学専攻

#### 修士課程

科目区分	科目名	単位数
専攻科目	臨床心理学特論 1	2
	臨床心理学特論 2	2
	臨床心理面接特論 1	2
	臨床心理面接特論 2	2
	臨床心理査定演習 1 (心理的アセスメントに関する理論と実践)	2
	臨床心理査定演習 2	2
	臨床心理査定演習 3	2
	臨床心理査定演習 4	2
	臨床心理基礎実習 1	1
	臨床心理基礎実習 2	1
	臨床心理実習(心理実践実習(医療))	4
	臨床心理実習(心理実践実習(教育))	4
	心理実践実習(福祉)	4
	心理実践実習(犯罪・産業)	1
	臨床心理実習 1	1
	臨床心理実習 2	1
	臨床心理学研究指導演習 1	1
	臨床心理学研究指導演習 2	1
臨床心理学研究指導演習 3	1	
臨床心理学研究指導演習 4	1	
関連科目	A群	
	心理学研究法特論	2
	臨床心理学研究法特論	2
	心理統計法特論	2
	B群	
	認知心理学特論	2
	生涯発達心理学特論	2
	C群	
	家族臨床心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2
	犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2
	人間関係学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2
	障害心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	2
	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2
	精神薬理学特論	2
	D群	
学校臨床心理学特論	2	
E群		
投映法特論	2	
心理療法特論	2	
教育分野に関する理論と支援の展開	2	
心理支援に関する理論と実践	2	
心の健康教育に関する理論と実践	2	
心理学特別演習 1	2	
心理学特別演習 2	2	

【修了要件】  
・2年以上在学し、所定の33単位以上を修得し、修士論文を提出して、その審査に合格すること。  
【履修方法】  
・専攻科目より必修14科目を含んで23単位以上、関連科目はA～Eの各群からそれぞれ2単位以上、計10単位以上、合計33単位以上を修得すること。  
・第1学年の履修登録上限単位数は、28単位とするが、臨床心理士および公認心理師の受験資格取得を希望する者は年間32単位とする。

#### 博士後期課程

科目区分	科目名	単位数
専攻科目	臨床心理学研究指導演習 I	1
	臨床心理学研究指導演習 II	1
	臨床心理学研究指導演習 III	1
	臨床心理学研究指導演習 IV	1
	臨床心理学研究指導演習 V	1
	臨床心理学研究指導演習 VI	1

【修了要件】  
・3年以上在学し、所定の6単位以上を修得し、博士論文を提出し、その審査に合格すること。  
【履修方法】  
・「臨床心理学研究指導演習I～VI」6科目6単位を修得すること。

### 通信教育課程

#### 生涯教育専攻

#### 修士課程

科目区分	科目名	履修方法	単位数
専攻科目(特殊研究)	教育人間学特殊研究 1	T	2
	教育人間学特殊研究 2	T	2
	仏教教育学特殊研究 1	T	2
	仏教教育学特殊研究 2	T	2
	比較教育学特殊研究 1	T	2
	比較教育学特殊研究 2	T	2
	教育制度学特殊研究 1	T	2
	教育制度学特殊研究 2	T	2
	教育方法学特殊研究 1	T	2
	教育方法学特殊研究 2	T	2
専攻科目(演習)	教育人間学演習	S	2
	仏教教育学演習	S	2
	比較教育学演習	S	2
	教育制度学演習	S	2
	教育方法学演習	S	2
	生涯教育特別演習	G	2
関連科目	教育史特殊研究	T	2
	教育心理学特殊研究	T	2
	障害児心理学特殊研究	T	2
	児童教育特殊研究	T	2
成人教育特殊研究	T	2	

【修了要件】  
・2年以上在学し、所定の30単位以上を修得し、修士論文を提出して、その審査に合格すること。  
【履修方法】  
・専攻科目から必修科目「生涯教育特別演習」1科目2単位、特殊研究8科目16単位以上、演習科目3科目6単位以上(「生涯教育特別演習」を除く)、合計30単位以上を修得すること。

#### 臨床心理学専攻

#### 修士課程

科目区分	科目名	履修方法	単位数
専攻科目	臨床心理学特論1	T・S	2
	臨床心理学特論2	T・S	2
	臨床心理面接特論1	T・S	2
	臨床心理面接特論2	T・S	2
	臨床心理査定演習 1 (心理的アセスメントに関する理論と実践)	S	2
	臨床心理査定演習2	S	2
	臨床心理査定演習3	S	2
	臨床心理査定演習4	S	2
	臨床心理基礎実習 1	S	1
	臨床心理基礎実習 2	S	1
	臨床心理実習1	E	4
	臨床心理実習2	E	4
	臨床心理実習3	S	1
	臨床心理実習 (心理実践実習(医療))	E	4
	心理実践実習(福祉)	E	4
	臨床心理実習 (心理実践実習(教育))	E	4
	心理実践実習(犯罪・産業)	E	1
	心理実践実習(GSV)	S	1
臨床心理学研究指導演習	G	2	
関連科目	A群		
	心理統計法特論	S	2
	心理学研究法特論	T	2
	臨床心理学研究法特論	T	2
	B群		
	生涯発達心理学特論1	T	2
	生涯発達心理学特論2	T	2
	認知心理学特論	T	2
	C群		
	犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	T	2
家族臨床心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	T・S	2	
D群			
人間関係学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	T	2	
精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	T	2	
障害心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	T	2	
E群			
学校臨床心理学特論1 (教育分野に関する理論と支援の展開)	T	2	
学校臨床心理学特論2	S	2	
投映法特論	T	2	
心理療法特論1 (心理支援に関する理論と実践)	S	2	
心理療法特論2	S	2	
心の健康教育に関する理論と実践	S	2	

【修了要件】  
・3年以上在学し、所定の30単位以上を修得し、修士論文を提出して、その審査に合格すること。  
【履修方法】  
・専攻科目より必修10科目17単位を修得すること。  
・「臨床心理実習1」、「臨床心理実習2」、もしくは「臨床心理実習(心理実践実習(医療))」、「臨床心理実習(心理実践実習(教育))」のいずれから2科目8単位以上を修得すること。  
・関連科目のA群～E群の各群からそれぞれ2単位以上、合計10単位以上を修得すること。

T=テキスト履修  
S=スクーリング履修  
T・S=テキスト・スクーリング履修  
E=実習  
G=修士論文・課題研究  
※くわしくはP.3を参照してください。

## 教員一覧 ※2024年度(2025年度は変更になる場合があります)。

氏名	専門分野	研究課題
<b>生涯教育専攻</b>		
青木 好子	発達発育と健康、応用健康科学、障がい者スポーツ/アダプテッドスポーツ	子どもの身体活動や体力は意欲や認知的機能と関連するか、感染症対策による子どもの身体活動量の傾向 DLW法を基準とした幼児の身体活動量の検証と、身体活動量向上プログラムの介入評価
青砥 弘幸	国語科教育学、ユーモア学	ユーモアの構造テスト(落語など)の教材としての価値、学校教育における「ユーモア能力」の育成について、認知的なズレを視点とした文学教育の展開
赤沢 真世	教育方法学、入門期英語教育、小学校外国語	小学校英語教育における指導と評価のあり方・パフォーマンス評価、アメリカ入門期英語教育における読み書き指導
日井 奈緒	幼児音楽、声楽	絵譜の研究・教材開発、能動的参加を促す幼児向けコンサートの研究
奥畑 志帆	障害科学、認知心理学、生理心理学、生体機能工学	ヒトの情報処理機能の神経生理学的基盤、発達障害児者の認知機能アセスメント
柏 まり	幼児教育・保育、子育て支援論	幼児教育・保育内容に関する研究、育児ソーシャル・サポートに関する研究、外国籍の子どもの日本語コミュニケーション支援教材の研究
後藤 直	人権・同和教育、地域教育	まちづくりとしての教育の検証、大学と地域の協働のまちづくり、同和教育、人権教育の新展開としての地域教育
小林 隆	学校教育学(社会科教育)	社会科における構成主義的学習指導モデルの開発研究、文化価値創造を意図する社会科学習指導モデルの開発研究
小林 みどり	幼児教育・保育、保育カリキュラム論	幼児教育・保育のカリキュラム研究
佐藤 和順	幼児教育・保育、保育者の職能論	保育者・教師のワーク・ライフ・バランス研究、孤育て解消のための目的緑の構築に関する研究
篠原 正典	教育学、教育方法学	柔軟な教育とその教育方法の効果の検証、ICT活用教育の実践効果、論理的な思考力の育成
杉本 均	比較教育学	アジアの教育、国境を越える教育
相馬 伸一	教育哲学、教育思想史	17世紀チェコの思想家コメニウスの研究、20世紀チェコの哲学者パトチカの研究、開放性(オープンマインド)の教育哲学的研究
高橋 敏之	保育内容学、児童文化学、芸術教育学	幼児の表現、言葉、環境、児童文化とそれに関連する保育実践、家庭教育、幼一貫教育、小学校生活科教育
高見 仁志	学校教育学(音楽教育)、教師教育	音楽科における教師の力量形成 - 教師の実践知とライフ・ヒストリーの研究 -、学級づくり・授業づくりを中心とした教師教育
月岡 卓也	代数学、幾何学、数理物理学	ゲージ理論、超弦理論、可積分系
堤 拓也	社会教育・生涯学習論、福祉教育・ボランティア学習論	ボランティア活動の一形態としてのワークキャンプの学習論の考究、ワークキャンプのサービス・ラーニングとしての効果検証と実装化、ESDを推進するための多層多元的な学びの場づくりに関する実践分析
二澤 善紀	数学教育学	関数概念の認識、小中・中高連携を意識した算数・数学教育、数学的モデリングを通じた数学の体系的理解
橋本 憲尚	教育心理学、発達心理学	自律的な学習活動の展開におけるメタ認知の役割、教員養成のための教育心理学の授業展開
波多野 達二	美術教育学	「造形的な見方・考え方を働かせながら、つくりだす喜びを味わう」授業の研究、造形活動における、幼・小・中連携教育の研究、図画工作科におけるポートフォリオ評価の研究
原 清治	教育社会学、学校臨床教育学、教員養成	学力問題(学力の国際調査、学力低下とゆとり教育、お受験など)、学校病理(いじめ、不登校、学力低下など)、若年就労問題(フリーター・ニート問題、キャリア教育など)
平田 豊誠	学校教育学(理科教育)	科学的思考力の育成と評価に関する研究、科学用語・科学概念の認識と理科授業法に関する研究、理科授業教材開発研究
堀家 由妃代	障害児教育、教育社会学	知的障害者の後期中等教育に関する研究、国内外の特別ニーズ教育に関する研究、発達障害児のコミュニケーションに関する研究
松戸 宏予	学校図書館学、図書館情報学、教育学	学校図書館における特別な支援の在り方に関する研究、児童生徒の情報リテラシースキルの獲得に向けた学校職員の連携、矯正施設における図書館の現状と課題
宮村 敬平	公法学	行政立法の公法学的考察、行政・議会の判断過程統制
山内 乾史	道徳教育論、教育社会学、比較教育学、高等教育論	道徳教育の比較社会学的研究、ネットいじめの教育社会学的研究、教育協力論、教育開発論、大学における学生文化論、学習支援論
山口 孝治	学校教育学(体育科教育)、教育実践学	優れた体育授業の創造に寄与する教師の実践的知識、実践的思考の研究、体育科の教材開発(小学校・中学校)
山崎 玲奈	臨床心理学	心理療法における遊びについて、保育における臨床心理学的視点
渡邊 照美	生涯発達心理学、死生心理学	身近な他者を死別で喪失した後の成長・発達、介護家族の心理的変容、若年ケアラー・ヤングケアラーの実態と人生に及ぼす影響
<b>臨床心理学専攻</b>		
荒井 真太郎	臨床心理学、力動的心理療法	青年期から成人期のパーソナリティ発達、家族イメージ、リラクゼーション法の導入
石岡 千寛	小児医学、病院心理臨床、障害児心理、発達心理学	病気の子どもとその家族への心理的・社会的支援、障害を持つ子どもとその家族への心理的・社会的支援、保育園・幼稚園における病児や障害児へのサポート
近藤 日出夫	犯罪心理学、非行臨床心理学	凶悪犯罪に関する研究、犯罪者・非行少年の心理査定に関する研究、犯罪被害に関する研究
鈴木 康広	ユング心理学、精神医学	箱庭療法、夢分析、描画療法、精神医学(病態水準の見立てと各々の精神力動的な理解)
寺口 大	臨床心理学	印象的体験の語りについての研究、認知的評価についての研究
中道 泰子	臨床心理学、箱庭療法	箱庭療法の研究、心理臨床における「関係性」の研究、女性の成熟プロセスの研究
藤岡 勲	臨床心理学、多文化間カウンセリング	多様な文化的背景を持つ人々に対する心理援助、心理援助におけるプロセス、学際的研究を支える方法論
牧 剛史	臨床心理学、心理療法学	夢に関する臨床心理学的研究、学校臨床の実践と研究
松瀬 喜治	心理査定(投射法検査)、描画テスト・描画療法	描画法における臨床イメージ、ロールシャッハ法と描画法のコーポレーション、対象関係投射法(ORT)の心理臨床的適用
箕浦 有希久	感情心理学、心理尺度構成法	超短縮版尺度、2項目自尊感情尺度の開発と妥当性、農村・漁村・住宅のフィールドワークによる地域の幸福研究、生体・睡眠リズムの問題に着目した発達障害・ASDの研究
免田 賢	認知・行動療法、発達障害のある児童・青年への行動支援	発達障害のある子どもとその家族への支援、児童・思春期の精神障害・発達障害に対する援助

## 研究テーマ・論文題目(修士・博士) ※これまでの修了者のものより抜粋しています。

<b>生涯教育専攻</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネットいじめの実態に関する総合的研究 - 誰がネットいじめに遭うのか -</li> <li>・ 探求学習を通じた高校改革に関する実証的研究 - 学力階層中位高校の生き残り戦略の構築 -</li> <li>・ 公立図書館における小学校支援の現状と課題について - 市立図書館における小学校支援及び連携協力に関するアンケート調査をもとに -</li> <li>・ パイリガル国家を目指す台湾CLIL - CLIL教材分析から見えるもの -</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数学の問題解決とメタ認知に関する研究 - 計算問題に焦点を当てて -</li> <li>・ 中国における職業インターンシップの効果と課題 - 社会人基礎力を中心に -</li> <li>・ 不登校児童・生徒・保護者の語りの分析 - 不登校支援団体Aに通う子どもたちを対象として -</li> <li>・ 子どもの主体性を育む保育者の関わり ~M-GTAによる保育者の語りの分析~</li> <li>・ 高等学校「美術」の授業における教科書活用の現状と課題 - 美術教員への聞き取りとアンケート調査から(兵庫県の場合) -</li> </ul>
<b>臨床心理学専攻</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放課後等デイサービスにおける児童の行動変容プログラムの効果 - 個別プログラムと集団プログラムを通して -</li> <li>・ 大学生のとくめきと主観的幸福感について - 経験サンプリング法による検討 -</li> <li>・ マンダラカラーと自己理解の過程 ~ 認知物語アプローチを介して ~</li> <li>・ 対象関係法による対象関係と抑うつについての研究</li> <li>・ 大学生のストレス時における相談行動を中心とした対処の実態と心理的特性に関する研究 - 心理的居場所感とレジリエンスに注目して -</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去のネガティブな体験に対する帰属様式が現在の自己受容ならびに他者受容に及ぼす影響</li> <li>・ バウムテスト3枚法におけるサインと性格特性の関連の検討: 心理的欲求と夢の木に着目して</li> <li>・ 現代日本において母親が感じる「子育てのしづらさ」に関する研究</li> <li>・ パーソナリティとSNSのアイコンの象徴的な関連について</li> <li>・ 発達障害の子を持つ親の障害受容のプロセス - 複線径路・等至性モデル(TEM)による分析 -</li> <li>・ 青年期における死生観とセルフ・コンパッションの関連</li> <li>・ 男性の化粧行動による感情変化の検討</li> </ul>

# 社会学研究科

〈社会学系〉と〈ソーシャルマネジメント系〉の学系を開設。  
社会人のリカレント教育にも対応できる教育体制を整備しています。



社会学研究科長  
堀江典子

社会学研究科は、激動の時代に対応しうる先端的な社会学理論の摂取と、それに基づき具体的な課題解決を追求できる充実した教育・研究体制を整えています。

通学課程に修士課程・博士後期課程を、通信教育課程に修士課程を開設しており、修士課程ではいずれも〈社会学系〉と〈ソーシャルマネジメント系〉の2つの学系からなるカリキュラムを導入しています。〈社会学系〉では、「文化」、「社会情報」、「共生・臨床」の各研究領域で社会学を志す人たちの多様なニーズに応えています。〈ソーシャルマネジメント系〉では、「環境」と「地域」の各研究領域における現実社会の諸課題に即した教育・研究を展開しています。いずれの系も研究指導においては主査となる指導教員を中心に集団指導体制をとることによって専門領域だけでなく関連領域からも研究指導を受けることができ、質の高い修士論文・博士論文の完成を支援しています。

通学課程・通信教育課程ともに、社会人のリカレント教育に対応しており、職場や地域での問題意識や自身の関心を発展させて修士・博士の学位取得を目指す多くの社会人の方々が在籍しています。

## 社会学専攻

通学課程

修士課程／博士後期課程

通信教育課程

修士課程

## 先端的な社会学理論の習得と 具体的な問題解決のための能力養成を行います。

## POINT

新しい社会状況に対する  
高度な専門的分析能力と  
問題解決能力を備えた人材を育成します

近年、グローバル化やIT化、環境問題やコミュニティの衰退、感染症の世界的流行など、数多くの新種の社会問題群が現れてきています。たとえば、文化・宗教的紛争の多発、情報メディアの発達による新たな経済・政治形態の出現、社会的経済的格差の拡大やライフスタイルの多様化、環境の保全や再生の緊急性、地域の自治や暮らし方をめぐる難題などが顕在化しています。

このような新しい社会状況に対し高度な専門的分析能力と問題解決能力をもつ人材がますます強く求められています。

本専攻では、こうした激動の時代に対応しうるような先端的な社会学理論の摂取とそれに基づく具体的な問題解決の追求を視野におさめた教育・研究体制を整えています。

社会人の方も自らの  
生活スタイルに合わせて  
学ぶことができます

社会人の方は自らの生活スタイルに合わせて通学・通信のいずれかの課程を選択することができます。社会人が専門的な社会学研究者になることはもちろん、より高度な社会的分析能力と社会的視野を備えた人材を養成するリカレント教育にも対応しています。

社会調査および政策立案の  
理論と技能も含め  
幅広く社会学的方法の習得をめざします

修士課程では、学説史・基礎理論から現代的な文化社会学、メディア論や情報社会論、臨床社会学、環境社会学や地域社会学など現代社会学の重要なトピックスにいたるまで、幅広い科目構成になっています。

博士後期課程ではさらに専門的に研究を深め、文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の5領域のうち一つの領域で研究教育者としての実力を養います。

修士課程では、地域公共政策士プログラムを開講しています。

通学修士課程では、専門社会調査士の資格を取得することができます。

## ディプロマポリシー (学位授与の方針)

### 社会学専攻

修士課程 ※ 次の1)から4)をすべて満たす者に「修士(社会学)」を授与する

#### 1) 知識

1. 社会学理論あるいはソーシャル・マネジメント理論を学修した上で、文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の領域のうち、いずれか一つの専門領域に関する高度な専門的知識を持っている
2. 専門領域以外で、近接する文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の各関連領域に関する高度な専門的知識を持っている
3. 専門領域に関連して様々な社会問題に関わる学際的知識を持っている

#### 2) 研究技能

1. 研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な能力を備えている
2. 研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

#### 3) 独創性

##### ■修士論文選択の場合

1. 専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置付けるとともに、様々な社会問題を深く専門的・理論的に考察する能力を備えている
2. 専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を位置づける能力を備えている

##### ■課題研究選択の場合

1. 専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置付けるとともに、様々な社会問題に適切な問題解決策を案出する能力を備えている
2. 専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を課題研究としてまとめる能力を備えている

#### 4) 総合力

##### ■修士論文選択の場合

1. 当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した独立した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を備えている

##### ■課題研究選択の場合

1. 当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域や、学際的領域における広範な知識を応用して遂行し、様々な社会問題に適切な問題解決策を案出し、その成果を一定の水準に到達した内容をもって課題研究としてまとめる総合的な能力を備えている

博士後期課程 ※ 次の1)から4)をすべて満たす者に「博士(社会学)」を授与する

#### 1) 知識

1. 社会学における文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の研究領域に関する優れて高度な専門的知識を持っている
2. 専門領域に関連して様々な社会問題に関わる広範な学際的知識を持っている

#### 2) 研究技能

1. 研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を備えている
2. 研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

#### 3) 独創性

1. 専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置付けるとともに、様々な社会問題を深く専門的・理論的に考察する能力を備えている
2. 専門領域において、当該研究が完全に新たな独自性を持っている
3. 研究遂行のために完全に独創的な研究方法を採用している

#### 4) 総合力

1. 当該研究が完全に独創的な内容を持ち、独立した新しい研究として公表するに相応しい高い水準で遂行する能力を備えている
2. 当該研究が広範な領域にわたる専門的知識を応用して展開され、優れて高い水準で遂行する能力を備えている
3. 上記の二点を踏まえながら、当該研究を博士論文としてまとめる能力を備えている

※大学院の教育研究上の目的とカリキュラムポリシー、アドミッションポリシーは本学Webサイトに掲載しています。

## 開講科目

### 通学課程

#### 社会学専攻

#### 修士課程

科目区分	科目名	単数	
基礎科目	社会学系	社会学理論研究	2
	ソーシャルマネジメント系	ソーシャルマネジメント理論研究	2
	社会学系	社会学特殊研究 1 (社会文化)	2
		社会学特殊研究 2 (社会文化)	2
		社会学特殊研究 3 (社会情報)	2
		社会学特殊研究 4 (社会情報)	2
		社会学特殊研究 5 (共生臨床)	2
		社会学特殊研究 6 (共生臨床)	2
	ソーシャルマネジメント系	ソーシャルマネジメント特殊研究 1 (環境)	2
		ソーシャルマネジメント特殊研究 2 (環境)	2
		ソーシャルマネジメント特殊研究 3 (地域)	2
		ソーシャルマネジメント特殊研究 4 (地域)	2
ソーシャルマネジメント特殊研究 5 (地域)		2	
ソーシャルマネジメント特殊研究 6 (地域)		2	
専攻科目	社会学系	社会学演習 1 (社会文化)	2
		社会学演習 2 (社会情報)	2
		社会学演習 3 (共生臨床)	2
		社会学演習 4 (社会理論)	2
	ソーシャルマネジメント系	ソーシャルマネジメント演習 1 (環境)	2
		ソーシャルマネジメント演習 2 (環境)	2
		ソーシャルマネジメント演習 3 (地域)	2
		ソーシャルマネジメント演習 4 (地域)	2
	社会学系	社会学研究指導演習 1	1
		社会学研究指導演習 2	1
		社会学研究指導演習 3	1
		社会学研究指導演習 4	1
ソーシャルマネジメント系	ソーシャルマネジメント研究指導演習 1	1	
	ソーシャルマネジメント研究指導演習 2	1	
	ソーシャルマネジメント研究指導演習 3	1	
	ソーシャルマネジメント研究指導演習 4	1	
関連科目	社会調査論	2	
	社会調査演習 1	2	
	社会調査演習 2	2	
	社会調査演習 3	2	
	地域公共政策論	2	
	地域公共政策演習 1	2	
地域公共政策演習 2	2		
地域公共政策演習 3	2		

#### 【修了要件】

・2年以上在学し、所定の30単位以上を修得し、修士論文または課題研究を提出して、その審査に合格すること。

#### 【履修方法】

- ・専攻科目は「社会学系」「ソーシャルマネジメント系」の2学系からいずれか1つを選択し、履修すること。
- ・専攻科目は選択した学系より基礎科目2単位、特殊研究科目8単位以上、演習科目4単位以上、研究指導科目4単位、計18単位以上修得すること。
- ・専攻科目、関連科目より計30単位以上修得すること。
- ・第1学年の履修登録上限単位数は、年間22単位とする。

### 博士後期課程

科目区分	科目名	単数
専攻科目	社会学研究指導演習 I	1
	社会学研究指導演習 II	1
	社会学研究指導演習 III	1
	社会学研究指導演習 IV	1
	社会学研究指導演習 V	1
	社会学研究指導演習 VI	1

#### 【修了要件】

・3年以上在学し、所定の6単位以上を修得し、博士論文を提出して、その審査に合格すること。

#### 【履修方法】

- ・「社会学研究指導演習I~VI」6科目6単位を修得すること。

### 通信教育課程

#### 社会学専攻

#### 修士課程

科目区分	科目名	履修方法	単数
基礎科目	社会学系	社会学理論研究	ST 2
	ソーシャルマネジメント系	ソーシャルマネジメント理論研究	ST 2
	社会学系	社会学特殊研究 1 (社会文化)	T 2
		社会学特殊研究 2 (社会文化)	T 2
		社会学特殊研究 3 (社会情報)	T 2
		社会学特殊研究 4 (社会情報)	T 2
		社会学特殊研究 5 (共生臨床)	T 2
		社会学特殊研究 6 (共生臨床)	T 2
	ソーシャルマネジメント系	ソーシャルマネジメント特殊研究 1 (環境)	T 2
		ソーシャルマネジメント特殊研究 2 (環境)	T 2
		ソーシャルマネジメント特殊研究 3 (地域)	T 2
		ソーシャルマネジメント特殊研究 4 (地域)	T 2
ソーシャルマネジメント特殊研究 5 (地域)		T 2	
ソーシャルマネジメント特殊研究 6 (地域)		T 2	
専攻科目	社会学系	社会学演習 1 (社会文化)	ST 2
		社会学演習 2 (社会情報)	ST 2
		社会学演習 3 (共生臨床)	ST 2
		社会学演習 4 (社会理論)	ST 2
	ソーシャルマネジメント系	ソーシャルマネジメント演習 1 (環境)	ST 2
		ソーシャルマネジメント演習 2 (環境)	ST 2
		ソーシャルマネジメント演習 3 (地域)	ST 2
		ソーシャルマネジメント演習 4 (地域)	ST 2
	社会学系	社会学研究指導演習	G 2
		ソーシャルマネジメント研究指導演習	G 2
		社会調査論	ST 2
		地域公共政策論	S 2
関連科目	地域公共政策演習 1	S 2	
	地域公共政策演習 2	S 2	
	地域公共政策演習 3	S 2	

#### 【修了要件】

・2年以上在学し、所定の30単位以上を修得し、修士論文または課題研究を提出して、その審査に合格すること。

#### 【履修方法】

- ・専攻科目の中から「社会学系」「ソーシャルマネジメント系」の2学系からいずれか1つを選択し、履修すること。
- ・専攻科目は選択した学系より基礎科目2単位、特殊研究科目8単位以上、演習科目8単位、研究指導科目2単位、計20単位以上修得すること。
- ・専攻科目、関連科目より計30単位以上修得すること。

T=テキスト履修

S=スクーリング履修

ST=スクーリング履修+テキスト履修

G=修士論文・課題研究

※くわしくはP.3を参照してください。

## 教員一覧

※2024年度(2025年度は変更になる場合があります)。

氏名	専門分野	研究課題
安藤 潤	経済政策	労働時間と主観的幸福度に関するジェンダー・アイデンティティ仮説の検証、オーバーツーリズムと住民の主観的幸福度、防衛部門経済の外部効果の実証分析
上田 道明	地方自治論、政治学、行政学	住民投票、市民参加、民主政論、地方自治論
大谷 栄一	宗教社会学、近代仏教	近現代日本の宗教者・宗教団体の社会活動・政治活動、地域社会と宗教の関係、近代仏教のトランスナショナル・ヒストリー
大束 貢生	ジェンダー論、マイノリティ論、ボランティア論	現代の不平等(性の問題、虐待、学歴賃金格差など)の解決方法に関する研究
大貫 拳学	ジェンダー/セクシュアリティ論、臨床社会学、社会学理論	主体化の機制に関する社会学理論的考察、犯罪現象および刑事司法過程のジェンダー分析、家族と暴力についての事例研究
大場 吾郎	メディア産業論、コンテンツビジネス	映像コンテンツの海外展開、コンテンツのブランド戦略、アメリカメディア産業の変容
大藪 俊志	行政学	地方行政改革と自治体行政運営の動向、規制行政の変容と多層的な規制システムの構築
金 佑榮	地域経済学、地域金融論	グローバル化と地域金融・地域産業に関する実証的研究、地方自治と地方財政の関係に関する研究、世界金融史研究
香西 豊子	医療社会学	身体の視覚化と社会現象、身体の数値化と社会現象、医療における「外れ値」の事例研究
河内 良彰	地域経済論、観光学	観光回遊行動、観光地の中心性分析、災害遺産および災害記録のツーリズム
近藤 敏夫	社会学説史、社会調査論	生活史に関する研究、社会学史研究
作田 誠一郎	少年非行論、教育社会学、犯罪社会学	少年非行史の研究、学校問題に対する社会学的研究、青少年に関する規範意識の研究
辰巳 伸知	社会学、社会哲学	批判的 sociology 理論の研究
谷本 和也	情報社会学、経営情報論、マーケティング	オンラインコミュニケーションに関する研究、高等教育市場におけるICT投資の最適化に関する研究、デジタルプラットフォームにおける価値共創に関する研究
崔 銀姫	メディア学、社会学	朝鮮戦争七十年とメディア、世代と記憶
長光 太志	社会調査論、労働社会学、教育社会学	アクティブラーニングが大学生のトランジョンに与える影響の研究、自己分析や自己PRの社会的機能に関する研究
根本 達	文化人類学、南アジア地域研究	インドの仏教徒が取り組む不可触民解放運動、現代インドのグリトによる異カースト間結婚、佐々井秀嶺保存料のデジタルアーカイブ化
野崎 敏郎	歴史社会学、日本社会史、社会思想史	マックス・ヴェーバーの大学論とドイツ第二帝政期の高等教育政策、カール・ラートゲンの日本研究と明治期の日独関係、中山間地域の復興、森林の再生、農林水産業の発展
林 隆紀	環境学、高分子化学	循環型社会における材料に関する研究、資源環境教育に関する研究、低炭素社会における資源効率に関する研究
原田 徹	政治学、行政学、EU/ヨーロッパ研究	EU/ヨーロッパ政治と公共政策、政府間関係および政府体系論
藤井 透	社会政策、社会保障、イギリス社会政策の歴史	ウェブ夫妻のナショナル・ミニマム概念について
堀江 典子	都市環境学、都市計画、造園学、博物館学	都市における緑地の機能と供給に関する研究、都市施設の博物館的機能に関する研究
三重野 雄太郎	法学(刑法、医事法、スポーツ法)、生命倫理学	着床前診断の法規制、ゲノム編集の法規制、スポーツ・インテグリティの刑罰的保護
水上 象吾	都市環境学	自然希求意識を基調とした都市における自然の評価、庭園において自然享受を誘発する視覚環境条件の解明
村瀬 敬子	歴史社会学、メディア文化研究、生活学	近代日本のメディアとジェンダー、生活財と消費文化に関する研究
柳下 実	計量的手法にもとづくジェンダーの社会学	世帯内労働とジェンダー
山口 洋	社会調査論、社会統計学	「一票の格差」の指標の数値・計量社会学的再検討
山本 奈生	文化の社会学、権力論	文化的領域における権力作用の研究、都市政策および犯罪政策の研究、「新しい社会運動」のフィールドワーク
若林 靖永	マーケティング、中小企業論、批判的思考教育	伝統産業、観光等の地域発起業者による新市場創造、地域開発における中小企業ネットワークのエフェクチュエーションの成立条件、デジタル時代のマーケティング

## 研究テーマ・論文題目(修士・博士)

※これまでの修了者のものより抜粋しています。

- ・現代の祇園祭山鉾巡行にみる運営基盤の研究 —綾傘鉾保存会青年部を事例として—
- ・マックス・ヴェーバーの「資本主義の精神」論と日本 —近代資本主義の光と影—
- ・看護教育大学化の歴史的背景
- ・超高齢化社会における買い物難民問題
- ・犯罪・非行の要因としての女子少年・若年女性の「生き辛さ」に対する支援の在り方に関する考察 —更生保護施設における聴取調査を中心として—
- ・下水道施設の運転・維持管理現場における事業外部化の実態と受託民間企業の事業経営に関する研究
- ・現代日本における「団地」と地域自治会の変容に関する研究 —京都市伏見区の市営住宅を事例に
- ・留学生の学習とアルバイトの時間的バランスに影響する因子 —日本におけるベトナム人留学生への調査研究—
- ・日本における外来のキリスト教系新宗教の展開 —日本のエホバの証人に関する本部志向>とその影響—
- ・ギャンブル依存症者に対する自助グループの役割 —「ギャンブラーズ・アノニマス」への参与観察を通して—
- ・日本における個人化実現可能性 —ベック的個人化再考—
- ・学校教師の不登校観 —中学校教師へのインタビュー調査を通じて—
- ・在日中国人の子育てに対するソーシャルキャピタルの影響
- ・日本の森林とグローバル資本主義 —森林保全の歴史と課題—
- ・総合型地域スポーツクラブが地域社会に果たす役割 —クラブ運営者が地域のソーシャル・キャピタル醸成の核となり得る可能性から—
- ・ラジオ野球中継の現状と課題 —ネット配信及びテキスト速報との比較調査から—
- ・昭和戦中期における「母性」観の変容 —母子保健政策の歴史社会学的分析—
- ・少年野球の母親役割についてのジェンダー論的考察
- ・日本陸軍航空教育組織と人材育成・人材移動

# 社会福祉学研究科

福祉の現場に精通した教員が充実。

実践的なカリキュラムと厚みと広がりのあるサポートで多様な学生たちの幅広いニーズに応えています。



社会福祉学研究科長  
藤松素子

## 社会福祉学への招待

### —専門性を究め、キャリアアップの機会に—

社会福祉学研究科の修士課程には、通学・通信の両課程ともに福祉や保育の仕事に携わっている社会人が多く在籍しています。現場での実践と大学院での学びを並行して行い、より専門的な知識や技能を高めて再び現場に戻る。そうしたリカレント教育の実践がまさに修士課程の目標の一つです。社会人の多様なニーズに応えるカリキュラムを用意して、高度専門職の養成を推進しています。また、学部から大学院に進学する人たちに対しては、基礎的な研究方法論の理解を深めるために複数の教員による論文指導を行っています。博士後期課程では、大学院生と教員が共同で博士論文の完成に向けた研究会を立ち上げ、2カ月に1度継続的に開催するなど、研究者の育成に向けてきめ細やかな指導体制を整備しています。

カリキュラムに2つの系を設けていることも特色の一つです。さらに、福祉の現場に精通した教員が多いことから、フィールドワークや臨床研究の機会も充実させるなど、入学してくる大学院生の明確なニーズに、厚みと広がりのあるサポートでしっかりと応えていける環境を整えています。

## 社会福祉学専攻

通学課程

修士課程／博士後期課程

通信教育課程

修士課程

キャリアアップ、  
高度社会福祉専門職・研究者養成をめざして  
社会福祉研究の今日的課題に  
積極的に応えるカリキュラムを用意。

## POINT

発達福祉系と  
地域福祉開発系を柱に  
カリキュラムを編成

①発達福祉系(出生から乳幼児期、学齢期、青年・成人期、高齢期に至る全ライフステージを対象に、当事者・家族・地域課題への具体的・実践的対応を総合的・専門的に研究)と、②地域福祉開発系(グローバルな角度から関連諸領域を包括する福祉政策、社会福祉開発について総合的・専門的に研究)の二つの柱からなるカリキュラムで、社会福祉高度専門職とスペシフィックな高度研究職を養成する大学院教育をめざしています。

論文の作成を支援するための  
親身な指導体制を整備

修士論文・博士論文の作成を支援するために、個別指導とともに関連領域を研究する教員の集団指導体制も組んでいます。  
自宅での研究が中心となる通信教育課程においては、テキスト履修においてレポート作成と担当教員の指導を受け、スクーリングでは少人数授業を通じて徹底的に議論する場が提供されます。また、修士論文作成時の個別指導では大学院教育の醍醐味を十分に満喫することができます。

## ディプロマポリシー (学位授与の方針)

### 社会福祉学専攻

修士課程 ※ 次の1)から4)をすべて満たす者に「修士(社会福祉学)」を授与する

#### 1) 知識

1. 社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関わるいずれか1つの専門領域に関し、高度な専門的知識を持っている
2. 専攻する専門領域以外で、近接する社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する専門的知識を持っている

#### 2) 研究技能

1. 研究課題に関して科学的に分析し、論理的に思考する能力があり、それらを再構成して適切に表現する能力を有している
2. 研究を遂行するために必要な調査技法を習得し、適切な調査を遂行する能力がある
3. 研究を遂行するために必要な語学力を持っている

#### 3) 独創性

1. 研究課題に関し、先行研究を把握した上で、自らの研究の目的・意義を位置づけることができる
2. 研究課題に関し、先行研究をふまえて、適切な研究方法により修士論文としてまとめることができる

#### 4) 総合力

1. 研究課題に関する高度な専門的知識と、関連領域に関する専門知識、適切な研究技能、さらに独創性を有し、その成果を修士論文に集大成する総合的な能力を備えている

博士後期課程 ※ 次の1)から4)をすべて満たす者に「博士(社会福祉学)」を授与する

#### 1) 知識

1. 社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関わるいずれか1つの専門領域に関し、優れて高度な専門的知識を持っている
2. 専攻する専門領域以外で、近接する社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する高度な専門的知識を持っている

#### 2) 研究技能

1. 研究課題に関して科学的に分析し、論理的に思考する能力があり、それらを再構成して適切に表現する優れた能力を有している
2. 研究を遂行するために必要な調査技法を習得、適切に調査を遂行する能力がある
3. 研究を遂行するために必要な高度な語学力を持っている

#### 3) 独創性

1. 研究課題に関し、先行研究を把握した上で、自らの研究の目的・意義を位置づけることができる
2. 研究課題に関し、先行研究をふまえて、適切な研究方法により博士論文としてまとめることができる

#### 4) 総合力

1. 研究課題に関する高度な専門的知識と、関連領域に関する専門知識、適切な研究技能、さらに独創性を有し、その成果を博士論文に集大成する優れて総合的な能力を備えている

※大学院の教育研究上の目的とカリキュラムポリシー、アドミッションポリシーは本学Webサイトに掲載しています。

## 開講科目

### 通学課程

#### 社会福祉学専攻

#### 修士課程

科目区分	科目名	単位	
専攻科目	科基礎	社会福祉学研究基礎 1	2
		社会福祉学研究基礎 2	2
	特殊研究科目 (A群)	社会福祉原理論研究	2
		社会福祉方法論研究	2
		社会福祉政策論研究	2
		社会福祉史研究	2
		比較福祉研究	2
		乳幼児保育特殊研究	2
	特殊研究科目 (B群)	児童福祉特殊研究	2
		障害者福祉特殊研究	2
		高齢者福祉特殊研究	2
		精神保健福祉特殊研究	2
		医療福祉特殊研究	2
		地域福祉特殊研究	2
演習科目	現代社会福祉問題特殊研究	2	
	乳幼児保育特殊演習	2	
	児童福祉特殊演習	2	
	障害者福祉特殊演習	2	
	高齢者福祉特殊演習	2	
	精神保健福祉特殊演習	2	
研究指導科目	医療福祉特殊演習	2	
	地域福祉特殊演習	2	
	社会福祉学研究指導演習 1	1	
	社会福祉学研究指導演習 2	1	
関連科目	社会福祉学研究指導演習 3	1	
	社会福祉学研究指導演習 4	1	
	共生とケア 1	2	
	共生とケア 2	2	
	福祉の国際比較	2	

#### 【修了要件】

・2年以上在学し、所定の30単位以上を修得し、修士論文を提出して、その審査に合格すること。

#### 【履修方法】

・基礎科目より4単位、特殊研究科目 (A群)より必修4単位を含み6単位以上、特殊研究科目 (B群)より6単位以上、演習科目より6単位以上、研究指導科目より4単位、計30単位以上修得すること。  
・第1学年の履修登録上限単位数は、年間22単位とする。

### 博士後期課程

科目区分	科目名	単位
専攻科目	社会福祉学研究指導演習I	1
	社会福祉学研究指導演習II	1
	社会福祉学研究指導演習III	1
	社会福祉学研究指導演習IV	1
	社会福祉学研究指導演習V	1
	社会福祉学研究指導演習VI	1

#### 【修了要件】

・3年以上在学し、所定の6単位以上を修得し、博士論文を提出して、その審査に合格すること。

#### 【履修方法】

・「社会福祉学研究指導演習I～VI」6科目6単位を修得すること。

### 通信教育課程

#### 社会福祉学専攻

#### 修士課程

科目区分	科目名	履修方法	単位
専攻科目	科基礎	社会福祉学研究基礎 I	S 2
		社会福祉学研究基礎 II	T 2
	特殊研究科目 (A群)	社会福祉原理論研究	T 2
		社会福祉方法論研究	T 2
		社会福祉政策論研究	T 2
		社会福祉史研究	T 2
		比較福祉研究	T 2
		乳幼児保育特殊研究	ST 2
	特殊研究科目 (B群)	児童福祉特殊研究	ST 2
		障害者福祉特殊研究	ST 2
		高齢者福祉特殊研究	ST 2
		精神保健福祉特殊研究	ST 2
		医療福祉特殊研究	ST 2
		地域福祉特殊研究	ST 2
演習科目	現代社会福祉問題特殊研究	ST 2	
	乳幼児保育特殊演習	ST 2	
	児童福祉特殊演習	ST 2	
	障害者福祉特殊演習	ST 2	
	高齢者福祉特殊演習	ST 2	
	精神保健福祉特殊演習	ST 2	
研究指導科目	医療福祉特殊演習	ST 2	
	地域福祉特殊演習	ST 2	
	社会福祉学研究指導演習	G 2	
関連科目	共生とケア I	ST 2	
	共生とケア II	ST 2	
	福祉の国際比較	ST 2	

#### 【修了要件】

・2年以上在学し、所定の30単位以上を修得し、修士論文を提出して、その審査に合格すること。

#### 【履修方法】

・基礎科目より4単位、特殊研究科目 (A群)より必修4単位を含み6単位以上、特殊研究科目 (B群)より6単位以上、演習科目より6単位以上、研究指導科目より2単位、計30単位以上修得すること。

T=テキスト履修

S=スクーリング履修

ST=スクーリング履修+テキスト履修

G=修士論文・課題研究

※くわしくはP.3を参照してください

## 教員一覧 ※2023年度(2024年度は変更になる場合があります)。

氏名	専門分野	研究課題
新井 康友	高齢者福祉論	高齢者の孤立死(社会的孤立)の実態とその予防活動
井上 洋平	発達心理学、障がいのある子どもの保育(療育)	他者評価や無条件の関心が幼児に及ぼす影響、子どもの発達と保育・療育の課題
伊部 恭子	ソーシャルワーク、児童福祉	社会的養護における子ども・若者の生活支援、ソーシャルワーク教育
江本 純子	精神保健福祉、社会福祉・政策	障害者の労働・生活をめぐる課題—精神障害者、発達障害者を中心に—
岡崎 祐司	福祉・医療政策、地域福祉論	新自由主義の社会的影響とそれに対抗する社会福祉政策の構想について、地域再生の探求にかかわる地域福祉のありかた、地方自治体の課題について
緒方 由紀	精神保健福祉論、社会福祉方法論	社会福祉援助とコミュニティの課題、精神保健福祉政策
加美 嘉史	貧困問題研究、公的扶助論、就労支援	生活困窮者・生活保護利用者の自立支援政策に関する研究、貧困の自己責任論に関する研究、ホームレス状態にある人々の施設ケアと居住保障
小池 桂	社会福祉史	近現代日本における社会福祉の形成過程(特に地方における展開)
孔 栄鍾	障害者福祉政策、障害者の貧困問題	障害者福祉政策の分析、障害者の貧困問題とその原因分析、社会福祉政策の日韓比較研究
坂本 勉	社会福祉(社会福祉政策、高齢者福祉)	介護保険制度下における人権擁護、高齢者虐待防止研究
塩満 卓	精神保健福祉論、家族支援論	ケアの脱家族化に関する研究、精神障害者及びその家族の意識変容プロセス、ソーシャルワーカーの成長過程に関する研究
高木 健志	ソーシャルワーク、精神保健医療福祉	精神保健医療福祉領域におけるソーシャルワーク実践について、農山村住民のくらしと福祉的課題について、質的研究方法を用いた実践研究について
武内 一	社会小児科学、子どもの福祉、臨床小児科学	子どもの貧困解決への医療からのアプローチ、社会小児科学の日本での定着への貢献、海外との連携による子ども分野での社会の公平性
田中 智子	障害者福祉、家族福祉	障害者のいる家族に生じる生活問題、ケアに関する理論的考察
長瀬 正子	児童福祉、社会的養護	社会的養護で育つ子ども・若者の権利保障、社会的養護で育った人たちの自立支援の理念と方法
長友 薫輝	社会保障学、医療・福祉政策論、地域医療論・地域福祉論	医療提供体制と皆保険体制の再構築、医療・介護保障水準の向上、地域調査による住民自治・地方自治のまちづくり、社会保障制度・政策研究
中西 さやか	保育学、教育学	子どもの主体的な学びに関する研究、諸外国の保育政策・カリキュラム、社会的に不利な子どもたちの保育
朴 光駿	社会福祉(社会福祉政策)、社会福祉思想	東アジア老人福祉政策比較研究、社会福祉思想史
藤松 素子	社会福祉理論、地域福祉論	「我が事・丸ごと」時代の地域福祉推進における課題、インクルーシブな地域コミュニティ構築の要件
眞砂 照美	ソーシャルワーク、障がい児者支援	修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた質的研究、五感力を活用した療育支援技術に関する研究、第三者評価を通じた学び合いモデルの研究
村上 武敏	医療福祉論、社会福祉実践論	医療福祉の社会科学的研究、社会福祉の対象論と方法論の研究

## 研究テーマ・論文題目(修士・博士) ※これまでの修了者のものより抜粋しています。

- ・介護保険制度と障害者福祉制度の「制度間調整」に関する研究 —介護保険優先原則をめぐる「浅田訴訟」を手掛かりに—
- ・児童虐待ケースにおける親への支援 —児童相談所における相談援助活動の在り方から—
- ・家計収支の視点からみる高齢者の貧困問題の実態とその課題 —全国統計と過疎地域の現況に着目して—
- ・入所施設における強度行動障害の状態にある人の生活とその支援
- ・高齢知的障害者の健康状態の推移に関する研究 —心身機能レベルと活動レベルからのアプローチ—
- ・独居高齢者の居住環境と生活支援 —課題と必要な仕組み・制度—
- ・社会福祉士養成において教員が行う実習指導についての質的研究 —学生の実習経験を成長につなげる実習指導のあり方—
- ・ソーシャルワークの展開過程における意思決定支援について～社会福祉士による成年後見制度(保佐・補助類型)における後見活動実践を通して
- ・リハビリテーションの終了について
- ・重度障害児とその家族が直面する諸課題に関する一考察
- ・教員がソーシャルワークを学ぶ意義に関する一考察 —子どもと教員のウェルビーイングを目指して—
- ・ソーシャルワーカーにおける「意思決定支援」と「権利擁護」
- ・地域における非営利・福祉協同組織の役割 —韓国原州における社会的協同組合の取り組みを中心に—
- ・高齢者介護における介護者の会の存在意義 ～中山間地域の介護終了者からの考察～
- ・公立中学校の教育体制に関する不登校問題からの検討 —通信制高校勤務経験者へのインタビュー調査—
- ・医療生協の事業と運動に関する研究 —地域共生社会への対抗軸としての「人権・協同・共同化」—
- ・新たな「介護報酬体系」の構築とその可能性
- ・シングルマザーに対する「自立支援」政策に関する研究 ～母子生活支援施設における「保護」と「自立支援」をめぐる課題を中心に～